



瀬戸内における

水環境を基調とする海文化

瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み
資料編

平成 30 年 11 月

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会

瀬戸内における水環境を基調とする海文化
(瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み 資料編)

目 次

	頁
1. 瀬戸内における保全の取り組み事例一覧	1
2. 藻場の保全の取り組み事例	7
3. 干潟の保全の取り組み事例	43

1 (1). 保全の取り組み 実施事例一覧 (藻場)

海 域	番 号	藻場の名称	保全の取り組み名称	実施団体
紀伊水道	①	由良町衣奈、戸津井、大引、小引地先	磯根漁場再生事業	由良町
	②	徳島市漁協前	アマモ場づくり活動	徳島県漁業士会
大阪湾	③	関西国際空港島藻場	藻場の保全	関西エアポート株式会社
	④	阪南市鳥取地先（波有手アマモ場）	アマモ場再生・保全のための移植・啓発活動	NPO 法人環境教育技術振興会／NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター（代表窓口）／阪南市立西鳥取小学校
	⑤	男里川河口等	アマモ場の現状調査・再生活動（種子採集、播種、育成、植付など）	男里川干潟を守る会（平成7年4月設立）
	⑥	尼崎西宮芦屋港周辺	尼崎の海でワカメを育てよう	尼海の会（協力：大阪湾広域臨海環境整備センター）
	⑦	りんくうタウン地先	りんくうタウンアマモ場調査	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	⑧	兵庫運河（新川橋たもと）	アマモ場の保全活動	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト
播磨灘	⑨	赤穂海浜公園前	アマモ種子の採取および保存事業	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	⑩	明石市・江井ヶ島海水浴場前	アマモ種子の採取および保存事業	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	⑪	明石市・江井ヶ島海水浴場前	実感 アマモは海のゆりかごだ！	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	⑫	明石市・魚住沖浅場	明石市魚住沖に新たに造成された浅場でのアマモ場造成事業	特定非営利活動法人アマモ種子バンク
	⑬	玉野市山田港胸上地先	アマモ場再生活動	胸上漁業協同組合
	⑭	玉野市山田港胸上地先	浜の活力再生プラン推進事業(小型藻場ブロック設置)	岡山県地域水産業再生委員会（玉野市農林水産課）
播磨灘	⑮	備前市日生町地先	アマモ場「里海」再生プロジェクト	日生町漁業協同組合
	⑯	瀬戸内市邑久町長島地先	アマモ場再生事業	邑久町漁業協同組合
	⑰	さぬき市鴨庄地先	藻場の保全（栄養塩の供給）	鴨庄漁協活動組織

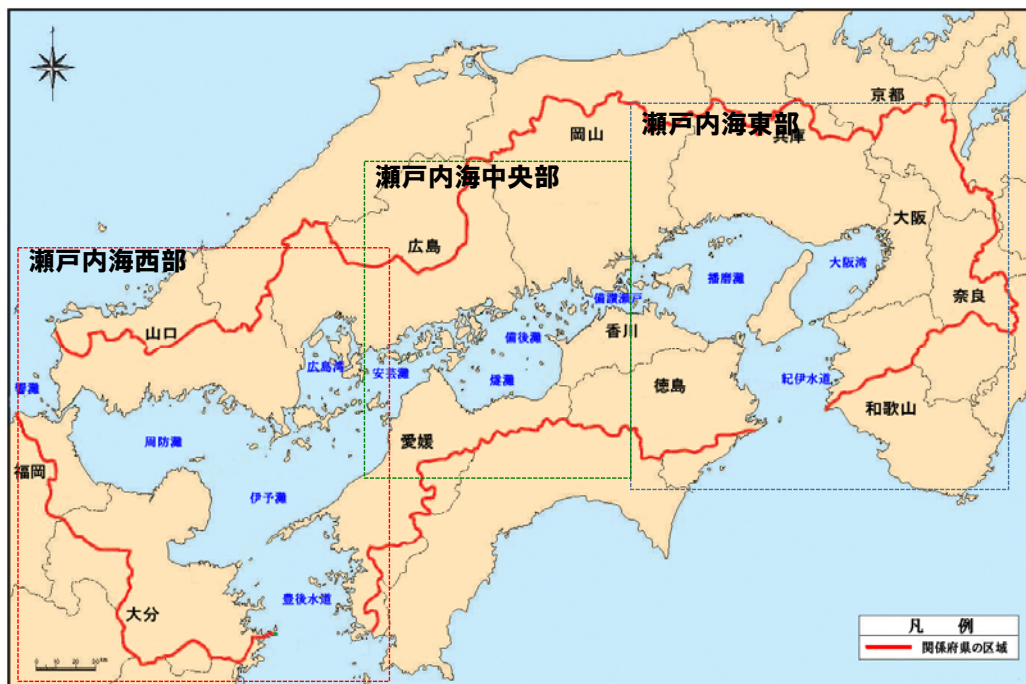
海 域	番 号	藻場の名称	保全の取り組み名称	実施団体
備 讃 瀬 戸	⑱	笠岡市高島地先	アマモ場再生事業	笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協力会（幹事：生活協同組合おかやまコープ、天野産業株式会社 会員：神島 寺間・見崎里浜づくり）、特定非営利活動法人里海づくり研究会議、笠岡市、岡山県
燧 灘	⑲	呉市下蒲刈町地先、音戸町地先、蒲刈町地先、川尻町地先	藻場の造成	呉市産業部農林水産課
	⑳	西条市壬生川地先	藻場の保全	西条市藻場づくり環境保全協議会
	㉑	西条市港新地	藻場の保全、種苗投入	西条地区環境保全活動組織
広 島 湾	㉒	広島市南区元宇品灯台下	せとうち海援隊	広島環境サポーターネットワーク河川海洋部会
	㉓	永田川河口干潟の藻場	永田川河口干潟環境の保全再生プロジェクト	永田川カエル倶楽部
伊 予 灘	㉔	柳井市 伊保庄地先・阿月地先	アマモの移植、播種	柳井藻場保全グループ
	㉕	国東漁場	水産環境整備事業	大分県農林水産部水産振興課
	㉖	亀川漁場	水産環境整備事業	大分県農林水産部水産振興課
周 防 灘	㉗	姫島漁場	水産環境整備事業	大分県農林水産部水産振興課
豊 後 水 道	㉘	伊方町塩成、川之浜海岸	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除	瀬戸地区環境保全協議会
	㉙	伊方町 九町女子鼻	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除	町見地区環境保全協議会
豊 後 水 道	㉚	佐伯湾	佐伯湾地区藻場保全活動	佐伯湾地区藻場保全活動組織
響 灘	㉛	六連島藻場	食害生物（ムラサキウニ）除去、アラメの母藻及び種苗の投入	六連島藻場保全グループ
	㉜	北九州市小倉北区馬島地先沿岸	藻場の保全	馬島活動組織
	㉝	北九州市小倉北区藍島地先沿岸	藻場の保全	藍島藻場保全部会
	㉞	北九州市若松区大字安屋地先沿岸	藻場の保全	脇田藻場保全部会
	㉟	北九州市若松区大字小竹地先沿岸	藻場の保全	脇の浦磯資源保全部会
	㊱	北九州市地先関門地区沿岸	藻場の保全	関門環境保全部会

1 (2). 保全の取り組み 実施事例一覧 (干潟)

海域	番号	干潟の名称	保全の取り組み名称	実施団体
紀伊水道	③7	西広干潟	海岸とその周辺の一斉清掃	広川町 企画政策課
	③8	有田川河口干潟	親子参加による清掃活動と絵本の読み聞かせ	もっとの会 おそうじクラブ
	③9	和歌浦干潟 (和歌川河口干潟)	磯根漁場再生事業	和歌山市
	④0	和歌川河口干潟	水産多面的機能発揮対策事業	和歌浦活性化活動組織
大阪湾	④1	男里川河口干潟	清掃、観察会、環境学習、調査	男里川干潟を守る会 (平成7年4月設立)
	④2	西宮市甲子園浜	甲子園浜の干潟等、海浜の自然環境を守るための普及啓発事業	特定非営利活動法人 海浜の自然環境を守る会
	④3	須磨海岸	潮干狩りの復活を目指した須磨海岸の里海づくり	特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会
	④4	須磨海岸	干潟等の保全	神戸のアサリを復活させる会
	④5	尼崎運河内、北堀運河	地域協働による尼崎運河の環境改善と活用	尼崎運河〇〇クラブ
播磨灘	④6	この浦舟池干潟	あらい浜風公園この浦舟池内の干潟創出プロジェクト-よりよいジュンカンを目指して-	Gata girl
	④7	唐船海岸	干潟の保全	赤穂市漁協豊かな干潟を守り育てる会
	④8	さぬき市鴨庄地先	干潟の保全	鴨庄漁協活動組織
備讃瀬戸	④9	大殿洲・西大島新田・夏目・鳥の江・東村・天神	リフレッシュ瀬戸内(海岸クリーン作戦)	笠岡市立カブトガニ博物館・笠岡市建設管理課
	⑤0	大殿洲	海辺の学校	笠岡市立カブトガニ博物館
備後灘	⑤1	尾道市向東町歌大磯・小磯(向東干潟)	(干潟清掃)	尾道東部漁業協同組合
	⑤2	観音干潟、灘干潟、戸崎干潟、百島干潟	水産多面的機能発揮対策事業	広島県東部アサリ協議会(浦島地区)
	⑤3	松永湾地先	アサリの住める干潟を目指して。	環境市民ネットまつなが
	⑤4	有明浜	有明浜の自然環境を守るための普及啓発活動	有明浜の海浜植物を観察する会
燧灘	⑤5	西条市加茂川干潟	加茂川干潟、海浜の自然環境を守るための普及啓発事業。	禎瑞環境クラブ
広島湾	⑤6	宮島大元公園沖の干潟(宮島水族館西側の桟橋より東側の浜、廿日市市宮島町第一種共同漁業権共代37号区域の一部)	アサリの再生事業(干潟観察会と潮干狩り体験も含む)	NPO 法人宮島ネットワーク(「宮島の磯・生き物調査団」の一部協力を得る)
	⑤7	阿品海岸、地御前海岸(地御前神社外宮橋付近)	海のクリーンアップ作戦(海岸清掃)	廿日市市、市民、漁協・企業等団体
	⑤8	大野鳴川海岸	海のクリーンアップ作戦(海岸清掃)	廿日市市、市民、漁協等団体

海域	番号	干潟の名称	保全の取り組み名称	実施団体
広島湾	⑤9	宮島包ヶ浦	海のクリーンアップ作戦 (海岸清掃)	廿日市市、瀬戸内海国立公園宮島地区パークボランティアの会、市民
	⑥0	廿日市市大野瀬戸地先	水産多面的機能発揮対策事業	前潟干潟研究会
	⑥1	厳島神社周辺海岸	海岸清掃	廿日市市宮島公衆衛生推進委員会
	⑥2	前潟干潟	水産多面的機能発揮対策事業	前潟干潟研究会
	⑥3	鹿川湾干潟	永田川河口干潟環境の保全再生プロジェクト	永田川カエル倶楽部
伊予灘	⑥4	重信川河口域	今出ヶ浜・重信川河口の大掃除による環境保全	今出ヶ浜潮騒を守る会
	⑥5	乙津川(大野川の分流)河口干潟	干潟の保全	河川ボランティア
周防灘	⑥6	王司(千鳥ヶ浜)干潟	干潟の耕耘、ツメタガイ等の除去	王司干潟改良グループ
	⑥7	榎野川河口干潟(山口湾)	榎野川河口域干潟等における里海再生活動	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
	⑥8	豊前市八屋干潟	豊前市八屋地先の干潟の地域資源の維持・回復	福岡県豊前海区環境・生態系保全対策地域協議会
	⑥9	北九州市 曽根干潟	曽根干潟クリーン作戦	北九州市立曽根東小学校
	⑦0	北九州市小倉南区曽根干潟	曽根干潟の自然環境を守るための普及啓発事業	日本野鳥の会北九州支部
	⑦1	曽根干潟	曽根干潟のカブトガニと生息地の自然環境を守るための普及啓発事業	日本カブトガニを守る会福岡支部
	⑦2	中津干潟・豊前海	生きものの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟・豊前海干潟を未来へ	NPO法人水辺に遊ぶ会

【区分図】



【瀬戸内海東部(紀伊水道・大阪湾・播磨灘)】

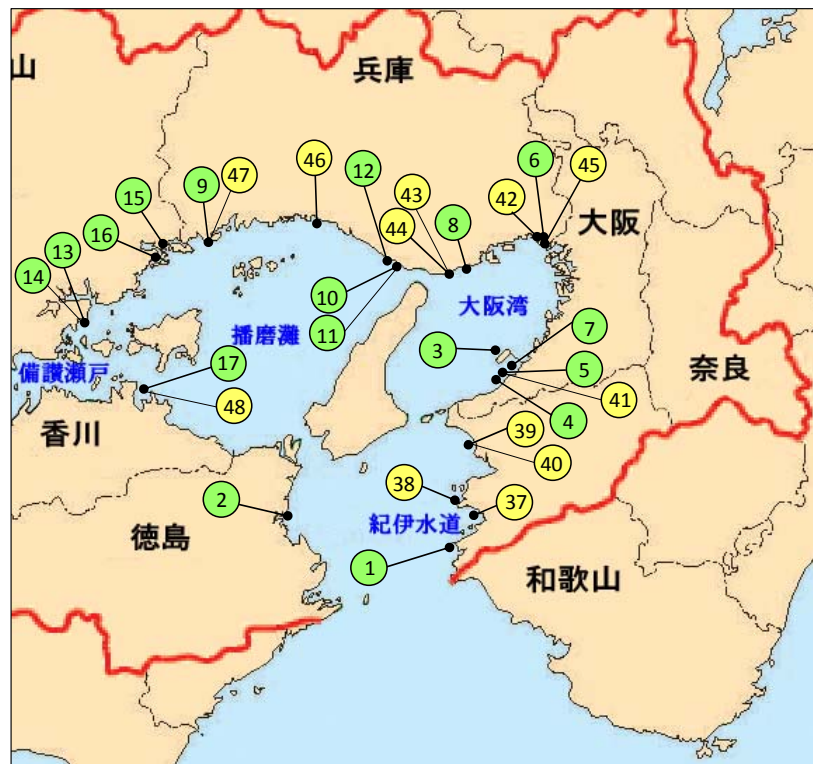
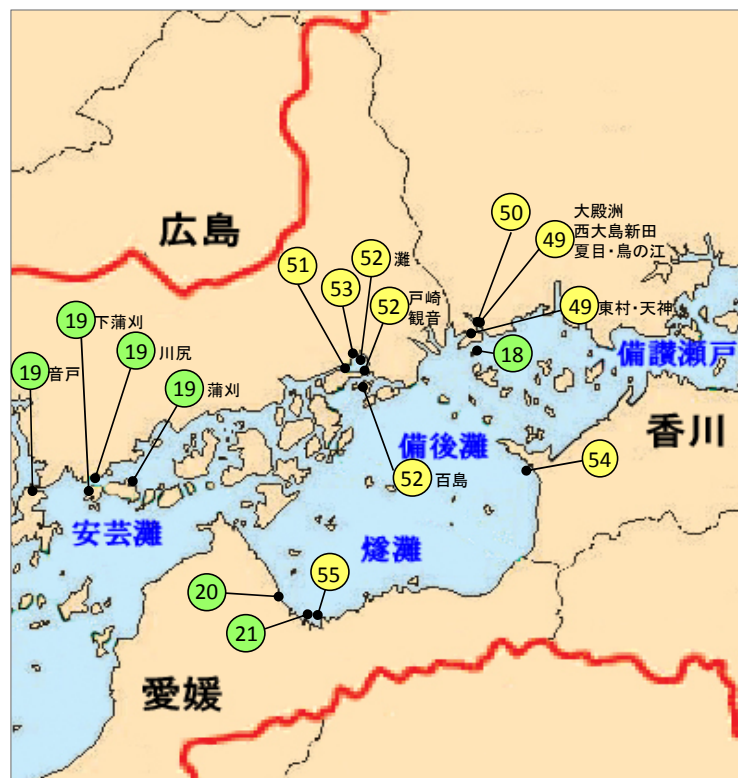


図9-1 藻場・干潟の保全の取り組み事例の実施場所

緑 藻場 黄 干潟

【瀬戸内海中部(備讃瀬戸・備後灘・燧灘)】



【瀬戸内海西部(広島湾・伊予灘・周防灘・豊後水道・響灘)】

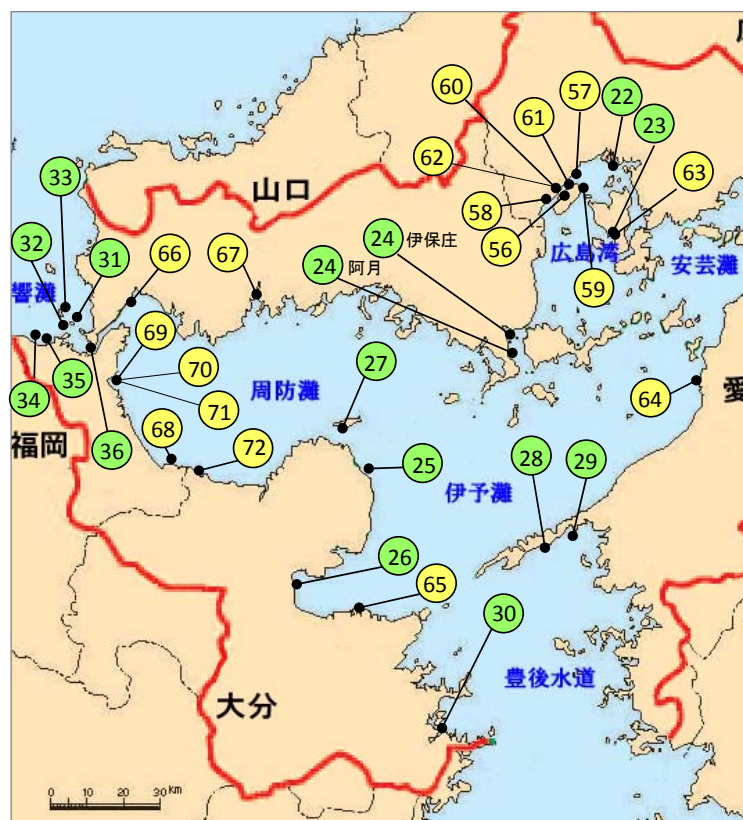
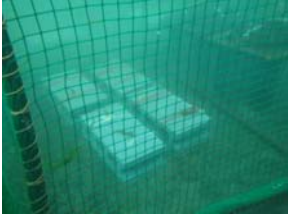


図9-2 藻場・干潟の保全の取り組み事例の実施場所

緑 藻場 黄 干潟

2. 藻場の保全の取り組み事例

藻場と保全の取り組み (No.①)

藻場の名称	由良町衣奈、戸津井、大引、小引地先		
海域（府県）名*1	紀伊水道（和歌山県）	エリア名*1	由良湾
藻場の面積	1 0 0 ha 出典：【（環境省生物多様性の観点から重要性の高い地域）】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）
藻場の特徴	由良町衣奈地区から大引地区は瀬戸内海に含まれるが、太平洋との境界に近く、黒潮の影響を比較的強く受ける。この地区の地先は主に磯であり、所々に砂浜がある。磯には、アワビ類の生息にとって有用なカジメ・クロメ類やアカモクなどの海藻が見られる。		
保全の取り組み名称	磯根漁場再生事業		
実施団体名	由良町		
連絡先住所	〒649-1111 和歌山県日高郡由良町里 1220-1		
代表者名	由良町長	Email	sanken@town.yura.lg.jp
団体会員数	名	HP	http://www.town.yura.wakayama.jp/
（活動の概要） 磯焼けの発生により、アワビ類等の磯根資源が衰退しているため、由良町漁業振興協議会が行うカジメやアカモクなどを実海域に移植する藻場造成に対して支援を行い、磯根資源の再生を図る。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成29年1月17日 天然海域から採取したカジメと人工的に生産したカジメ種苗を磯焼け海域に移植した。その際、アイゴやウニ類による食害を防ぐため、移植場所をネットによって取り囲んだ。   ・平成29年5月8日 天然海域に生育しているアカモクを採取し、人工魚礁を用いて磯焼け海域に移植した。 			

関連する生物種等	希少種
○野鳥：ハヤブサ、ウミネコ ○藻場の生き物：アカメ、ヒゲダイ、ヒゲソリダイ、クロコショウダイ、クロダイ、ヘダイ、カサゴ、ニジギンバ、リュウグウハゼ、サビハゼ、サツキハゼ、アイゴ、クサフグ、アメフラシ、タツナミガイ、ウミナメクジ、アカウニ、ムラサキウニ、ガンガゼ、ツマジロナガウニ ○海藻（海草）：アマモ、ウミヒルモ、カジメ、アカモク、ガラモ、ホンダワラ、マメダワラ ○植物：	
希少種の特徴等	
○野鳥：海岸沿いにハヤブサが周年見られる。また隣接地にウミネコの繁殖地がある。 ○藻場の生き物：隣接する湯浅湾でアカメの目撃、捕獲がたびたびあり、アカメの繁殖環境として沿岸藻場は重要であることから本海域の利用も考えられる。 ○海藻（海草）：前述の海藻類に加えて、小規模なアマモ群落、ウミヒルモ群落が点在する。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ②)

藻場の名称	徳島市漁業協同組合前		
海域（府県）名*1	紀伊水道（徳島県）	エリア名*1	
藻場の面積	8.2㎡ 出典：【水産研究課現地調査：2017.6】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	砂泥質の浜で、以前はアマモが衰退していた場所。アマモ場づくり活動によって、近年アマモ場が再生されつつある。		
保全の取り組み名称	アマモ場づくり活動		
実施団体名	徳島県漁業士会		
連絡先住所	〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地 徳島県農林水産部水産振興課内		
代表者名	美馬 守	Email	suisanshinkouka@pref.tokushima.jp
団体会員数	36名	HP	
（活動の概要） 徳島市津田地区において、地元小学校、地元漁業協同組合青壮年部と連携したアマモの播種作業を行い、アマモ場の再生と環境学習を実施。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） ・平成29年6月20日 アマモ播種体験			
			
播種作業		環境学習	
			
アマモ		環境学習	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○藻場の生物：メバル、カサゴ、クマエビ、ガザミ ○海藻（海草）：アマモ	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No.③)

藻場の名称	関西国際空港島藻場		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	
藻場の面積	53ha 出典：【自主調査（2016年3月）の結果より】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	大阪湾南東部、泉州沖約 5km の場所に造成された人工島の周囲の護岸に形成されている藻場。空港島造成時、護岸の大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用し人工の浅場を設け、藻場づくりの取り組みを行った。現在では海藻が繁茂し、様々な魚介類の生息場となっており、約 200 種類の生き物が確認されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	関西エアポート株式会社		
連絡先住所	〒549-8501 大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地		
代表者名	技術部 スマート愛ランドグループ	Email	—
団体会員数	— 名	HP	http://www.kansai-airports.co.jp/efforts/environment/kix/smart-island/report.html
（活動の概要） 1989 年の 1 期空港島の護岸完成時から、良好な藻場の育成と維持・拡大を目指し、モニタリングをはじめとする各種調査・実験が行われてきた。2 期空港島の造成時には、1 期空港島での実績や知見を踏まえて海藻が生育しやすい環境をつくり、拡大させてきた。現在においてもモニタリングを継続し、豊かな藻場環境の創造に向けて取り組んでいる。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 定期的なモニタリング調査の実施。 図 1 空港島の海藻着生総面積の推移 写真 1 ガラモ場に集まるメバルの幼稚魚 写真 2 シダモクなど 写真 3 カジメ - カジメ母藻の移植によるカジメ場拡大実験の実施。			

近年、海中林として魚介類のすみかとなるカジメの減少傾向がみられたことをうけ、母藻移植によるカジメ場拡大実験を実施している。移植にあたっては、カジメ母藻の活性を維持し、継続的な種苗の供給ができるよう、カジメが付着した石材ごと移植する手法を用いている。2017 年 10 月のモニタリング調査において、移植した母藻周辺に幼体を確認した。



写真 4 母藻採取



写真 5 石材に付着したカジメの母藻



写真 6 母藻移設

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：— ○藻場の生き物：メバル、カサゴ、キジハタ、ウニ、サザエ、アワビ 等 ○海藻（海草）：カジメ、ワカメ、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ 等 ○植物：—	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. ④)

藻場の名称	阪南市鳥取地先(波有手アマモ場)		
海域(府県)名 ^{*1}	大阪湾(大阪府)	エリア名 ^{*1}	
藻場の面積	0.9ha 出典:【「南泉州地域の藻場を活用した環境・人・文化の調和」活動報告書(平成29年度大阪府環境保全活動補助金事業)】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴	西鳥取漁港の東の離岸堤岸側に位置し、干潮時の水深が1mを切る流れが比較的速い砂質土の海浜。多年生のアマモが帯状に分布している。西鳥取漁港を挟んだ西側にも0.2haのアマモ群落がある。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生・保全のための移植・啓発活動		
実施団体名	NPO 法人環境教育技術振興会/NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター(代表窓口)/阪南市立西鳥取小学校		
連絡先住所	〒556-0021 大阪市浪速区幸町3-1-10 日本ミクニヤ(株)内(NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター)		
代表者名	中原紘之	Email	mari-co@osakawan.or.jp
団体会員数	一名	HP	http://osakawan.or.jp/
(活動の概要) 南泉州地域の自然環境や水産物、文化などの資源を一般市民に広く知ってもらい、かつての身近な海“大阪湾”を再生するために、大阪湾における体験型環境教育・啓発活動を実施。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会 学習会 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績) 1. アマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査 平成30年4月18日～20日および5月1日、5月17日に阪南市全域でのアマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査を行った。調査は干潮時の目視およびドローンによる空撮で行った。   2. アマモ苗移植 平成30年5月15日～17日に、阪南市にある西鳥取漁港周辺および下庄漁港周辺の3ヶ所で、阪南市立西鳥取小学校、阪南市立舞小学校、阪南市立下庄小学校の授業の一環として、前年度校内で生育させていたアマモ苗の移植を行った。 なお、アマモ場再生活動は前年度より関西大学北陽高等学校と連携して実施しており、小学生への指導や授業の一部を担当している。			



3. アマモ花枝採取

平成30年6月2日に、セブン-イレブン記念財団の環境保全活動である「セブン海の森づくりプロジェクト」の一環として、阪南市鳥取のアマモ場前面海浜で海岸清掃を行った。なお、花枝の成長が例年より遅く、未成熟であったため、花枝採取は6月15日に実施した。
平成30年6月14日に阪南市立西鳥取小学校の授業の一環として、アマモ花枝採取を行った。



4. 今後の予定

- ①種子選別(9月)
- ②全国アマモサミット2018in 阪南(11月2日～4日)
- ③アマモ苗床づくり・播種(11月～12月)

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年～30年)参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥: ○藻場の生き物:イシガレイ(幼魚)、メバル(幼魚)、ホウボウ(幼魚)、ヒメイカ、ヨウジウオ、タツノオトシゴ、ミドリアマモウミウシ ○海藻(海草):アマモ、オゴノリ、ミル、タオヤギソウ ○植物:	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑤)

藻場の名称	男里川河口等		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	泉南市・阪南市・岬町海域
藻場の面積	— ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	アマモ場は、かつて広域的に分布していたが、現状調査により量的には減少したが生育を確認した。また、近年、再生活動による分布拡大が確認された。		
保全の取り組み名称	アマモ場の現状調査・再生活動（種子採集、播種、育成、植付など）		
実施団体名	男里川干潟を守る会（平成7年4月設立）		
連絡先住所	〒590-0521 大阪府泉南市樽井2-5-2		
代表者名	田中 正視	Email	masami-t@nike.eonet.ne.jp
団体会員数	20 名	HP	なし
（活動の概要） ・ 定例清掃・観察会：毎月1回（第4日曜） ・ 環境学習の実施：地元（泉南市・阪南市など）の幼稚園・保育所・小学校・中学校など ・ 調査活動など：「アマモ場再生」環境学習（講義・実習、種子採集・播種・育成など現地活動） 「大阪湾見守りネット」（「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」）に、設立以来参加・発表 「大阪湾生き物一斉調査」に、平成20年第1回から参加（樫井川河口・男里川河口干潟） 「私の水辺大発表会」泉南子ども交流会に平成18年から参加、企画運営委員 「泉南市ABCまつり」「魚庭（なにわ）の海づくり大会」などでのパネル展示発表など			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成29年5月27日 （活動内容） 第10回大阪湾生き物一斉調査（泉南市岡田浦） アマモ場現状調査・生き物調査など			
			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：－ ○藻場の生き物：－ ○海藻（海草）：アマモ、ワカメ、アオサ ○植物：ハマヒルガオ	
希少種の特徴等	
	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑥)

藻場の名称	尼崎西宮芦屋港周辺		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	— ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 <u>ワカメ場</u> その他（ ）		
藻場の特徴	尼崎西宮芦屋港内の直立護岸を利用したロープ式の人工藻場		
保全の取り組み名称	尼崎の海でワカメを育てよう		
実施団体名	尼海の会（協力：大阪湾広域臨海環境整備センター）		
連絡先住所	〒641-0035 和歌山県和歌山市関戸 2-3-2		
代表者名	平井 研	Email	tidalflat01@mail.goo.ne.jp
団体会員数	40 名	HP	http://hito-sizen-machidukuri.jp/
（活動の概要） 本活動では、尼崎西宮芦屋港内の直立護岸において、水質浄化や生物生息場の創出などの環境修復を目的として、ワカメの育成に関する調査・研究を実施している。ワカメは、種糸をつけたロープを 12 月頃から海中に設置して育成している。なお、本活動では、「ジュンカン」をテーマとした環境教育も同時に実施しており、その内容は、育ったワカメを堆肥化→堆肥を利用して菜の花を育成→菜の花から菜種、菜種油を回収→油を使って天ぷら→体内を通過して海の恵みが海に還る、といったものである。この一連の「ジュンカン」を徳島大学や地元の中学生や市民、NPO や企業と協働し、実施している。			
（主な活動内容） <u>種の供給・再生</u> <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 <u>研修会・学習会</u> <u>他との協同連携</u> その他（ ）			
（最近の活動実績） ・2010 年 12 月 25 日 第 1 回 ワカメの種糸設置以降、毎年実施 ＜2016 年度＞ ・2016 年 4 月 9 日 第 43 回 菜の花の観察 ・2016 年 4 月 30 日 第 44 回 菜の花の観察 ・2016 年 5 月 29 日 第 45 回 菜の花の刈取り ・2016 年 6 月 19 日 第 46 回 菜種の収穫 ・2016 年 7 月 30 日 第 47 回 直立護岸に付着する生物の剥ぎ取り、剥ぎ取った生物の堆肥化 ・2016 年 9 月 3 日 第 48 回 ヒマワリ畑作り ・2016 年 11 月 6 日 第 49 回 菜の花畑作り ・2016 年 12 月 25 日 第 50 回 ワカメの種糸設置 ・2017 年 1 月 22 日 第 51 回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017 年 2 月 25 日 第 52 回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017 年 3 月 26 日 第 53 回 フォーラム開催 2018 年度も活動継続中			

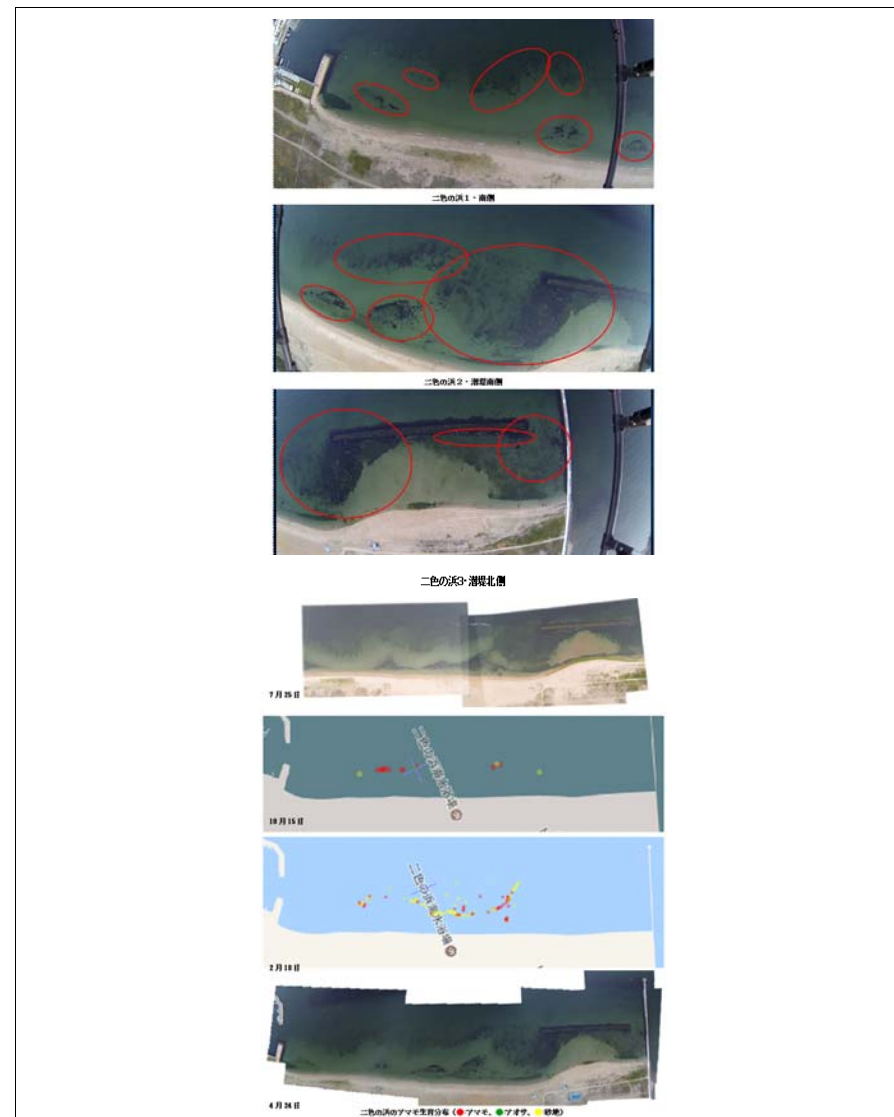


関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：ワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑦)

藻場の名称	りんくうタウン地先		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	
藻場の面積	面積不明 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	りんくう 5 協が関空前沿岸部(樽井サザンビーチ～二色の浜公園)でのアマモ場再生事業を平成 15 年度より行い、樽井サザンビーチ、岡田浦、二色の浜ではアマモが定着し、藻場面積が増大している。		
保全の取り組み名称	りんくうタウンアマモ場調査		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） りんくう沿岸部の樽井、岡田浦、二色の浜でドローンにより高度 100m から海底面を空撮し、海底面の陰影からアマモの分布域を調査する。また、船上より水中ビデオを水中に降ろし、空撮で海底の陰影がある部分の海域で船を行き来し、GPS による船の位置情報とビデオ映像の内挿された時刻を照合することで、海底の陰影がアマモかどうかを判定する。 （主な活動内容） 種の供給・再生 <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） 平成 29 年 4 月 24 日 （活動内容）ドローンによる海底の撮影			
 			
平成 28 年 10 月 15 日 （活動内容）"釣るとこみるぞう君"によるアマモの映像			
 			
調査結果 （活動内容）二色の浜公園前のアマモ場について示す			



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場の名称	兵庫運河（新川橋もと）		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.1ha 出展：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	当水域は、港湾区域の水路内にあり、高度成長期の水質汚染により魚介藻類が絶滅状態になり、近年水質の改善により回復状況にある。		
保全の取り組み名称	アマモ場の保全活動		
実施団体名	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト		
連絡先住所	〒652-0872 神戸市兵庫区吉田町 3-7-29 兵庫漁協内		
代表者名	糸谷安一	Email	
団体会員数	54 名	HP	
（活動の概要） アマモの株の移植			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（現在の活動実績） ・28年 5月20日 （活動内容） 神戸市舞子漁港においてアマモの花穂を採取し、“根巻き”を行い、移植できる状態の株に加工した。 ・28年 6月 6日 （活動内容） 兵庫運河の新川橋もとにおいて、アマモの株の移植を行った。 ・29年 1月12日 （活動内容） 兵庫運河の新川橋もとにおいて、移植後のアマモの発芽状況を確認した。（発芽は確認できなかった） ・29年 5月10日 （活動内容） 4月19日に設移植したアマモの発芽チェックを行った。			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



アマモの発芽確認



アマモの花穂

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑨)

藻場の名称	赤穂海浜公園前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	3ha 出典：【平成 17 年度～平成 19 年度「台風による消失したアマモ場の現地調査とその回復事業」報告書（2008.3.31）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、台風による一時的な藻場面積の減少はあるが、自然に回復する安定したアマモ場である。		
保全の取り組み名称	アマモ種子の採取および保存事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 赤穂海浜公園前のアマモ場で花枝(種子)を採取し、江井ヶ島海岸壁に設置した海水流下水槽に花枝を入れて養生し、1～2 か月後に鞘から分離した種子を雑物から選別する。選別したアマモ種子は使用時まで、4℃に設定した恒温高湿庫に保存しておく。 平成 15 年度より赤穂市・海っ子倶楽部、相生市・相生湾自然再生学習会議が地元小学校 3 年生児童の環境体験学習として行っているアマモ苗を育成し、移植するアマモ場再生事業に種子を融通し、協力している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成 17 年 6 月 22 日 （活動内容）アマモ花枝(種子)の採取 ・ 平成 28 年 6 月 18 日 （活動内容）アマモ種子の養生			

- 平成 20 年 7 月 24 日
（活動内容）アマモ種子の選別



- 平成 25 年 8 月 19 日
（活動内容）アマモ種子の保存(恒温高湿庫:設定温度 4℃)



- 平成 27 年 10 月 29 日
（活動内容）アマモの種まき会(那波小学校、相生小学校)



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑩)

藻場の名称	明石市・江井ヶ島海水浴場前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.25ha 出典：【本アマモ場で地曳網を行っており、その際の目測による（2018.1.14）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、江井ヶ島港沖防波堤が設置されて西風の冬季風浪が遮蔽され、毎年花枝(種子)採取、移植用のアマモ株を採取しているが、藻場面積の減少することなく、安定したアマモ場である。しかし、海水交換が潮汐によるものだけで、アマモ場内に流入した細粒分がトラップされてアマモ場内に滞留するため、底質が軟泥化しており、将来アマモが一朝にして無くなることも考えられる。		
保全の取り組み名称	アマモ種子の採取および保存事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 江井ヶ島海水浴場前のアマモ場で花枝(種子)を採取し、江井ヶ島港岸壁に設置した海水流下水槽に花枝を入れて養生し、1～2 か月後に鞘から分離した種子を雑物から選別する。選別したアマモ種子は使用時まで、4℃に設定した恒温高湿庫に保存しておく。 平成 15 年度よりりんくう 5 協が関空前沿岸部(樽井サザンビーチ～二色の浜公園)でのアマモ場再生事業、環境教育技術振興会や大阪海さくらが行っている小学生児童や市民によるアマモ場再生事業(せんなん里海公園)に種子を融通し、協力している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 26 年 6 月 29 日 （活動内容）アマモ花枝(種子)の採取  - 平成 27 年 11 月 12 日 （活動内容）アマモの種まき会(田尻小学校) 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑪)

藻場の名称	明石市・江井ヶ島海水浴場前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.25ha 出典：【本アマモ場で地曳網を行っており、その際の目測による（2018.1.14）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、江井ヶ島港沖防波堤が設置されて西風の冬季風浪が遮蔽され、毎年花枝(種子)採取、移植用のアマモ株を採取しているが、藻場面積の減少することなく、安定したアマモ場である。しかし、海水交換が潮汐によるものだけで、アマモ場内に流入した細粒分がトラップされてアマモ場内に滞留するため、底質が軟泥化しており、将来アマモが一朝にして無くなることも考えられる。		
保全の取り組み名称	実感 アマモは海のゆりかごだ！		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） アマモ場にどんな生き物がどれほど棲んでいるか、小型地曳網を用いた自生アマモ場の生物調査を児童達や市民に自ら体験してもらい、獲れた生き物を自分の目で見て、触れることにより、海のゆりかごアマモ（アマモ場）の大切さを実感してもらい、その再生を目指す活動への理解と共感を広げることを目的にアマモ場に生息する生物の四季調査を兼ねて行っている。 （主な活動内容） 種の供給・再生 <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 <u>研修会・学習会</u> 他との協同連携 その他（ ）			

（最近の活動実績）

- 平成 28 年 9 月 25 日

（活動内容）アマモ場に生息する生物調査(夏季)



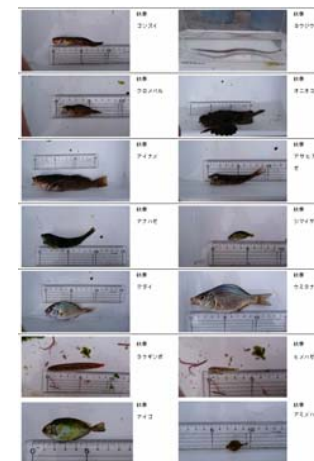
地曳網の様子



生き物の選り分け



神戸市立須磨海浜水族園の岩村飼育課長さんから生き物の説明

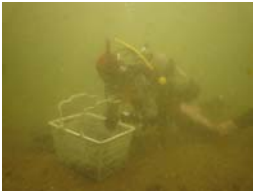


当日の採捕生物

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	☐ は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑫)

藻場の名称	明石市・魚住沖浅場		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0ha 新たなアマモ場造成		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	加古川河口部の浚渫土砂で新たに造成された面積 450m×450m、天端高-5.0m の浅場上に、隣接した江井ヶ島海岸の自生アマモ場で採取した種子および栄養株を用い、新たなアマモ場を創出する。		
保全の取り組み名称	明石市魚住沖に新たに造成された浅場でのアマモ場造成事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 江井ヶ島海水浴場前のアマモ場で採取した栄養株を金網法により浅場上に移植する。また、採取保存した種子をアマモバック法により浅場上に播種する。そして、栄養株の活着状況、種子の発芽、生育状況を定期的に行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 30 年 1 月 14 日 （活動内容）アマモ場造成(金網法による栄養株の移植およびアマモバック法による播種)   アマモ栄養株の移植 アマモバック法による播種 - 平成 29 年 8 月 11 日 （活動内容）平成 28 年 12 月 18 日に移植した栄養株の追跡調査 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑬)

藻場の名称	玉野市山田港胸上地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（岡山県）	エリア名*1	児島湾
藻場の面積	21.71 ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	平成27年度の岡山県の調査により、砂泥域においてアマモ場が確認された。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生活動		
実施団体名	胸上漁業協同組合		
連絡先住所	〒706-0305 岡山県玉野市胸上1808		
代表者名	國屋利明	Email	
団体会員数	82名	HP	
（活動の概要） 胸上地先は、かつて広範囲にアマモが繁茂していたが、様々な環境の変化によりアマモ場が激減した。近年、海域環境の回復によりアマモ場が徐々に再生してきており、更なるアマモ場面積の増加を目指し、胸上漁業協同組合、玉野市及び岡山県が連携し、アマモ場再生活動を実施している。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（播種後の調査） （最近の活動実績） - 平成28年2月26日 底質調査及び藻場造成海域の選定 - 平成28年6月25日 アマモの種の採取 参加者 18名（漁業者、行政） - 平成28年9月17日 アマモの種の選別及び播種 参加者 16名（漁業者、行政） - 平成29年2月16日 発芽状況調査 - 平成29年6月27日 アマモの種の採取 参加者 23名（漁業者、行政） - 平成29年11月1日 アマモの種の選別及び播種 参加者 17名（漁業者、行政）			
 アマモの種子			
 アマモの種（花枝）の採取 H29/6/27  種の選別 H29/11/1  播種 H29/11/1			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑭)

藻場の名称	玉野市山田港胸上地先		
海域（府県）名 ^{*1}	播磨灘（岡山県）	エリア名 ^{*1}	児島湾
藻場の面積	3.05ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	平成27年度の岡山県の調査により、岩礁区域でガラモ場が確認された。		
保全の取り組み名称	浜の活力再生プラン推進事業（小型藻場ブロック設置）		
実施団体名	岡山県地域水産業再生委員会（玉野市役所農林水産課）		
連絡先住所	〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1 玉野市役所農林水産課 （岡山県地域水産業再生委員会玉野市地区部会事務局）		
代表者名		Email	nourinsuisan@city.tamano.lg.jp
団体会員数		HP	
（活動の概要） 浜の活力再生プラン推進事業を活用し、ガラモの生育に適した海域に小型藻場ブロックを試験的に設置した。また、その後のガラモの定着効果を検証し、藻場再生を効率的に進めるための基礎資料とする。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（小型藻場ブロックの設置、設置後の調査（予定））			
（最近の活動実績） ・平成29年11月9日 胸上地先に小型藻場ブロック24基を設置			
 小型藻場ブロック			
 藻場ブロックの設置 1			
 藻場ブロックの設置 2			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：ガラモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 15)

藻場の名称	備前市日生町地先		
海域（府県）名 ^{*1}	播磨灘（岡山県）	エリア名 ^{*1}	牛窓
藻場の面積	250 ha 出典：【岡山県（平成 27 年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	備前市日生町地先には大小 14 の島が点在し、本土と島々の間の静穏な海域にアマモが繁茂している。また、本地域のアマモの大半が 1 年生アマモであるので、衰退期にはアマモ場面積が大きく減少する。		
保全の取り組み名称	アマモ場「里海」プロジェクト		
実施団体名	日生町漁業協同組合		
連絡先住所	〒701-3204 岡山県備前市日生町日生 801-4		
代表者名	淵本重廣	Email	hinasegy@beach.ocn.ne.jp
団体会員数	141 名	HP	http://www.hinase.net
（活動の概要） 昭和 20 年代 590ha あったアマモ場は、高度経済成長期における様々な環境の変化により、昭和 60 年には 12ha にまで減少した。漁業者 19 名と漁協青年部 12 名が、わずかに残ったアマモの種を播き始めた昭和 60 年から活動は継続され、現在 250ha まで回復している。 なお、平成 24 年に日生町漁業協同組合、生活協同組合おかやまコープ、特定非営利活動法人里海づくり研究会及び岡山県の 4 者はアマモ場再生活動に係る連携協定を締結し、幅広い参加者による再生活動を実施している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 28 年 6 月 22 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 28 年 6 月 3 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、おかやまコープ組合員、アマモサミット参加者、行政など） - 平成 28 年 9 月 30 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 80 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 28 年 10 月 15 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など） - 平成 29 年 6 月 10 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、おかやまコープ組合員、日本プロジェクト参加者、行政など） - 平成 29 年 6 月 14～16 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 280 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 29 年 10 月 14 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名 （漁業者、おかやまコープ組合員、おかやま環境ネットワーク会員、行政など） - 平成 29 年 10 月 18 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 29 年 11 月 6 日 アマモの播種 参加者 約 10 名（漁業者）			



アマモの種の採取（流れ藻採取）
H29/6/10



種の選別
H29/10/14



播種
H29/10/14

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	☐ は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：多様な魚介類 ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

藻場と保全の取り組み (No. ⑬)

藻場の名称	瀬戸内市邑久町長島地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（岡山県）	エリア名*1	牛窓
藻場の面積	170ha 出典：【岡山県（平成 27 年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	長島と本土に挟まれた静穏な海域に、アマモが繁茂している。本地域のアマモの大半が 1 年生アマモであるため、衰退期にはアマモ場面積が大きく減少する。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生活動		
実施団体名	邑久町漁業協同組合		
連絡先住所	〒701-4501 岡山県瀬戸内市邑久町虫明 4256		
代表者名	横山 満明	Email	ok-gyo@snow.ocn.ne.jp
団体会員数	1 8 2 名	HP	

（活動の概要）

瀬戸内市邑久町地先には、かつては広大なアマモ場で存在していたが、様々な環境の変化により、アマモ場が激減した。近年、海域環境の回復により徐々にアマモ場が再生してきており、更なるアマモ場面積の増加を目指し、平成25年に邑久町漁業協同組合、生活協同組合おかやまコープ、特定非営利活動法人里海づくり研究会及び岡山県の4者がアマモ場再生活動に係る連携協定を連携し、幅広い参加者による再生活動を実施している。

（主な活動内容）

種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携
その他（ ）

（最近の活動実績）

- 平成 28 年 6 月 15 日 アマモの種の採取（流れ藻採取）
参加者 31 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成 28 年 10 月 19 日 アマモの種の選別及び播種
参加者 22 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成 29 年 6 月 17 日 アマモの種の採取（流れ藻採取）
参加者 31 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成 29 年 10 月 21 日 アマモの種の選別及び播種
参加者 27 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）



集合写真
H29/6/17



アマモの種の採取（流れ藻採取）
H29/6/17



種の選別
H29/10/21



播種
H29/10/21

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
・ 不明	

藻場と保全の取り組み (No. ⑰)

藻場の名称	さぬき市鴨庄地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（香川県）	エリア名*1	瀬戸内海東部
藻場の面積	4 ha 出典：【平成28年度 実施団体調べ】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	志度湾東部、鴨部川の河口に位置するアマモ場。底質は砂、小礫。河川から流入する砂の堆積が見られる。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（栄養塩の供給）		
実施団体名	鴨庄漁協活動組織		
連絡先住所	〒769-2102 香川県さぬき市鴨庄 4374 番地 30		
代表者名	山本 浩智	Email	
団体会員数	257 名	HP	
（活動の概要） アマモ場の増殖を図るため、漁業者等が河口部での施肥及び付近のため池の放水を実施し、海域への栄養塩供給を行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（施肥及びため池の放水による海域への栄養塩供給）			
（最近の活動実績） - 平成27年12月～平成28年3月 施肥：延べ19回実施 ため池の放水：2箇所のため池を水抜き - 平成29年1月～3月 施肥：延べ27回実施 ため池の放水：1箇所のため池を水抜き			
			
施肥		放水中のため池	

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：未調査 ○藻場の生き物：有用水産物の幼稚仔魚 ○海藻（海草）：アマモ ○植物：未調査	
希少種の特徴等	
希少種は確認されていない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑱)

藻場の名称	笠岡市高島地先		
海域（府県）名*1	備讃瀬戸（岡山県）	エリア名*1	笠岡諸島
藻場の面積	2.42ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	高島は、笠岡諸島のうち最も本土に近接した島であり、かつては島の周辺にアマモが繁茂していた。 笠岡諸島のうち最も本土に近接した島であり、本土及び諸島の漁師たちが協力して再生に取り組みやすい場所でもある。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生事業		
実施団体名	笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協力会（幹事：生活協同組合おかやまコープ、天野産業株式会社 会員：神島 寺間・見崎里浜づくり）、特定非営利活動法人里海づくり研究会 笠岡市、岡山県		
連絡先住所	〒714-8601 岡山県笠岡市中央町1番地の1		
代表者名	笠岡市農政水産課長 江原 広一	Email	nouseisuisan@city.kasaoka.lg.jp
団体会員数	一 名	HP	
（活動の概要） 高島を含め笠岡市地先は、かつて広範囲にアマモが繁茂し、様々な魚介類が生息する豊かな海であった。近年、海域環境の回復によりアマモ場は徐々に再生してきているもののかつての豊かな海にまでは回復していない。そこで、当時の豊かな海を取り戻すために、平成28年に笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協力会（幹事：生活協同組合おかやまコープ、天野産業株式会社 会員：神島 寺間・見崎里浜づくり）、特定非営利活動法人里海づくり研究会、笠岡市、岡山県がアマモ場再生活動に係る連携協定を締結し、幅広い参加者による再生活動を実施している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成28年6月18日 アマモの種の採取 参加者 約70人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、行政など） - 平成28年10月11日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約50人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、行政など） - 平成29年6月17日 アマモの種の採取 参加者 約170人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、市場関係者、行政など） - 平成29年10月7日 アマモの種の選別・種まき 参加者 約70人（漁協組合員、おかやまコープ組合員、小学生、地元企業、行政など）			



アマモの種の採取
H29/6/20



種の選別
H29/10/7



種まき
H29/10/7



集合写真
H29/6/20

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥：－ ○藻場の生き物：ワレカラ類、ヨコエビ類、ゴカイ類、アオリイカ、カミナリイカ、タツノオトシゴ、スズキ、クロダイ、メバル、ボラ、イシガニ、クルマエビ等 ○海藻（海草）：アマモ、ワカメ ○植物：－	
希少種の特徴等	
不明	

藻場と保全の取り組み (No. ①⑨)

藻場の名称	呉市下蒲刈町地先, 音戸町地先, 蒲刈町地先, 川尻町地先		
海域(府県)名*1	燧灘・早瀬瀬戸(広島県)	エリア名*1	瀬戸内海中部
藻場の面積	ha 出典:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴			
保全の取り組み名称	藻場の造成		
実施団体名	呉市産業部農林水産課		
連絡先住所	〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号 呉市農林水産課		
代表者名	新原芳明	Email	nourinsui@city.kure.lg.jp
団体会員数	約2000名	HP	https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/38/
(活動の概要) 漁業資源の増大と水産物の安定供給を図るため、藻場(ガラモ場)造成事業等を進めています。自然環境の変化等の影響により、藻場が衰退した場所へ石材を投入し、藻場の着生を促しています。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他(藻場の造成)			
(最近の活動実績) - 平成27年度実施地区及び造成面積 下蒲刈町及び川尻町 1. 6ha - 平成28年度実施地区 蒲刈町及び音戸町 1. 6ha			
 			

関連する生物種等	は希少種
調査していない	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

藻場と保全の取り組み (No. 20)

藻場の名称	西条市壬生川地先		
海域（府県）名*1	燧灘（愛媛県）	エリア名*1	瀬戸内海中部
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場	その他（アマモ）	
藻場の特徴	底質は砂地。アマモが若干見られる程度で、大きな群落は形成されていない。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	西条市藻場づくり環境保全協議会		
連絡先住所	〒799-1394 愛媛県西条市周布 349-1		
代表者名	近藤 達也	Email	-
団体会員数	20 名	HP	-
（活動の概要） ・アマモの移植及び播種 ・流域における植林 ・モニタリング ・教育と啓発の場の提供（出前事業） ・漁村の伝統文化、食文化などの伝承機会の提供（魚を使った高校生料理コンテスト）			
（主な活動内容） <u>種の供給・再生</u> <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 <u>他との協同連携</u> その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成28年8月3日、10月28日 （活動内容）出前授業			
 			
・平成28年8月6日 （活動内容）魚を使った高校生料理コンテスト 			

- ・平成28年6月18日～11月19日
（活動内容）アマモの移植及び播種



- ・平成29年2月18日
（活動内容）流域における植林



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. 21)

藻場の名称	西条市港新地		
海域（府県）名*1	燧灘（愛媛県）	エリア名*1	中部海域
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場	ワカメ場	その他（クロメ）
藻場の特徴	大きな群落は見られず、クロメやワカメが点在している。		
保全の取り組み名称	藻場の保全、種苗投入		
実施団体名	西条地区環境保全活動組織		
連絡先住所	〒793-0043 西条市樋之口 445-1		
代表者名	藤田 一也	Email	-
団体会員数	43 名	HP	-
（活動の概要） 藻場の保全・回復のため、貝殻ブロックを投入。ブロック及び周辺へ海藻を移植予定。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 28 年 12 月 1 日 （活動内容）貝殻ブロック投入   - 平成 28 年 12 月 20 日 ～ 平成 29 年 3 月 24 日 （活動内容）モニタリング  			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：クロメ、ワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 22)

藻場の名称	広島市南区元字品灯台下		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【（）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（）		
藻場の特徴	当該地域は、広島湾北部海域に属し人口密度の多い市内を流れた水は、当該地域で攪拌し、海との接点をよく表している。		
保全の取り組み名称	せとうち海援隊		
実施団体名	広島環境サポーターネットワーク河川海洋部会		
連絡先住所	〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目 24-11-21		
代表者名	保光 義文	Email	
団体会員数	55 名	HP	
（活動の概要） 1997 年から太田川上流域を中心として広島市市街地近郊の中小河川を調査している。 また、海域では、太田川や海田湾における河口干潟の調査をし、広島大学などの干潟調査に参画・協力をしている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（）			
（最近の活動実績） 【海洋部会】 平成 29 年 2 月 12 日（日） 元字品灯台下 〃 5 月 11 日（土） 倉橋鹿島の瀬戸 〃 7 月 9 日（日） 似の島深浦 〃 8 月 20 日（日） 坂鯛尾の磯 【河川部会】 平成 29 年 2 月 19 日（日） 三篠川太田川合流地点 〃 3 月 5 日（日） 宇賀峡 〃 5 月 7 日（日） 三段峡 【定点観測】 平成 29 年 4 月 9 日（日） 広島駅前大橋 〃 6 月 25 日（日） 太田川放水路 〃 7 月 23 日（日） 広島駅前大橋 【出前講座】 平成 29 年 10 月 3 日（金） 太田川放水路干潟生物調査 外 5 件			



関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. 23)

藻場の名称	永田川河口干潟の藻場		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.1ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	コアマモ		
藻場の特徴	アマモは増殖していたが、2016～2017 にかけて底引き網により削り取られ、皆無です。		
保全の取り組み名称	永田川河口干潟環境の保全再生プロジェクト		
実施団体名	永田川カエル倶楽部		
連絡先住所	〒737-2302 江田島市能美町鹿川 558-1		
代表者名	池田朝雄	Email	consaru-kks@luck.ocn.ne.jp
団体会員数	29 名	HP	
（活動の概要） ① 2015 年と 2017 年の夏休みに藻場の生息域調査を永田川河口干潟で実施 ② アマモは増殖していたが、底引き網漁で削り取られ、皆無になった。 ③ 6 月にアオリイカ、コウイカの産卵調査			
（主な活動内容） 干潟清掃 藻場の測量			
   			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： カワウ、アオサギ、カモメ、ヒドリガモ、コガモ ○藻場の生き物：コウイカの卵、アオリイカの卵、イシガニ、ハオコゼ ○海藻（海草）：アオサ、ミル、ヒジキ、カキヒビの杭の根元にワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. 24)

藻場の名称	柳井市 伊保庄地先・阿月地先		
海域（府県）名*1	伊予灘（山口県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	柳井湾の奥部に位置し、稚仔魚の育成場として機能している。沖合域では日本三大潮流の一つと言われる大島瀬戸が位置しており、柳井周辺はマダイの好漁場ともなっている。		
保全の取り組み名称	アマモの移植、播種		
実施団体名	柳井藻場保全グループ		
連絡先住所	〒742-1352 山口県柳井市伊保庄 622 番地 1		
代表者名	酒井 章	Email	fukutoku64@gmail.com
団体会員数	28名	HP	なし
（活動の概要） 当該海域でのアマモ場が著しく衰退していることから、アマモの移植及び播種を行うことで、アマモ場の回復と機能の維持を図る。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） 平成29年6月23日：柳井市立柳井南中学校生徒を対象にアマモ場の生物観察、花枝採取を実施 平成29年7月12日、21日：アマモ種の採取作業 平成29年12月：アマモ種の播種作業（予定）			
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：メバル、ハオコゼ、ヨウジウオ、アミメハギ、タナゴが優占 その他、クサフグ、ヨロイメバル、アイナメ、アサヒアナハゼ、ヒイラギ、キュウセン、ギンボ、テナガスジエビ、タイワンガザミ、ガザミ、イシガニ、その他カニ類、イカ類、ホソモエビ、コシアガリモエビ、その他エビ類2種。エビジャコ類、ヒトデ類、ヨコエビ類、ワレカラ、アオリイカ、ウミウシ、アメフラシ（卵塊） ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
「調査していない」	

藻場と保全の取り組み (No. 25)

藻場の名称	国東漁場		
海域（府県）名*1	伊予灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	2.5ha 出典：【国東地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	藻場の造成		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海域及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 24 年度～平成 25 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網、はえ縄 ・対象魚種：メバル ・造成面積：平成 24 年度 17,640 m²、平成 25 年度 7,360 m² ※写真：H25 年度の投石で使用した石材			
 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
未調査のため不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 26)

藻場の名称	亀川漁場		
海域（府県）名*1	伊予灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	1.5ha 出典：【別府湾地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 <u>その他</u> （不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	水産環境整備事業		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海底及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 <u>その他</u>（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 25 年度～平成 26 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網 ・対象魚種：カサゴ、メバル ・造成面積：平成 25 年度 8,370 m²、平成 26 年度 6,630 m² ※写真：H26 年度の投石で使用した石材  			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル、カサゴ ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 27)

藻場の名称	姫島漁場		
海域（府県）名*1	周防灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	2.5ha 出典：【国東地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 <u>その他</u> （不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	水産環境整備事業		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海域及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 <u>その他</u>（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 24 年度～平成 26 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網、はえ縄 ・対象魚種：メバル ・造成面積：平成 24 年度 11,638 m²、平成 25 年度 5,612 m²、平成 26 年度 7,750 m² ※写真は、H26 年度の投石の様子  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. 28)

藻場の名称	伊方町塩成、川之浜海岸		
海域（府県）名*1	豊後水道（愛媛県）	エリア名*1	西部海域
藻場の面積	ha 出典：【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（クロメ）
藻場の特徴	自然の砂浜、磯がある貴重な浜。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除		
実施団体名	瀬戸地区環境保全協議会		
連絡先住所	〒796-0502 愛媛県西宇和郡伊方町三机乙 2989-13		
代表者名	和田 稔治	Email	k-matamoto@jf-yawatahama.or.jp
団体会員数	25 名	HP	-
（活動の概要） 磯焼けの要因のひとつであるガンガゼの食害の低減を図るため、海士が素潜りで駆除し個体数の管理を行っている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成28年12月12日 ガンガゼモニタリング（1名） ・平成28年12月15日 ガンガゼ駆除（9名） ・平成29年1月31日 ガンガゼモニタリング（1名） ・平成29年2月24日 ガンガゼ駆除（9名） ・平成29年2月28日 ガンガゼモニタリング（1名） ・平成29年3月22日 ガンガゼモニタリング（3名）			
 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： トビ、カモメ、ウミネコ、サギ ○藻場の生き物：サザエ、アワビ、ニナ、ウニ ○海藻（海草）：ヒジキ、フノリ、ワカメ、アオサ、クロメ、ガラモ、アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 29)

藻場の名称	伊方町 九町女子鼻		
海域（府県）名*1	豊後水道（愛媛県）	エリア名*1	西部海域
藻場の面積	出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（クロメ場）
藻場の特徴	海藻が多く赤ウニ・アワビ等が多く生息している漁場である。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除		
実施団体名	町見地区環境保全協議会		
連絡先住所	〒796-0422 愛媛県西宇和郡伊方町二見甲 1251 番地 5		
代表者名	古田 睦	Email	machimi-inoue@md.pikara.ne.jp
団体会員数	23 名	HP	-
（活動の概要） 磯焼けの要因の一つであるガンガゼの食害の低減を図るため、海士が素潜りで駆除し個体数の管理を行っている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 <u>食害動物駆除</u> 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 29 年 10 月 2 日 （活動内容） 藻場を保全するためガンガゼの駆除を行っている。			
  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：アワビ、サザエ ○海藻（海草）：クロメ、ヒジキ、ホンダワラ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

藻場と保全の取り組み (No. 30)

藻場の名称	佐伯湾		
海域（府県）名*1	豊後水道（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	78ha 出典：【豊後水道南部地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 <u>ガラモ場</u> <u>アラメ・カジメ場</u> ワカメ場 その他（）		
藻場の特徴	佐伯湾はリアス式海岸にあり、背後に山地が控えてあるため、そこから流れてくる栄養分に富んだ淡水により、身質に優れた魚介類が多く生息している。		
保全の取り組み名称	佐伯湾地区藻場保全活動		
実施団体名	佐伯湾地区藻場保全活動組織		
連絡先住所	〒876-1202 大分県佐伯市鶴見大字地松浦206-16		
代表者名	軸丸 幸信	Email	takamasa-shiotsuki@city.saiki.lg.jp
団体会員数	58名	HP	
（活動の概要） - 藻食生物の除去・モニタリング（現状把握・効果調査）・母藻設置 - 岩盤清掃			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 <u>磯清掃</u> <u>食害動物駆除</u> 研修会・学習会 他との協同連携 その他（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） 29年11月1日 （活動内容） 藻食生物の除去（ガンガゼ駆除） 母藻を設置する箇所やガンガゼの大量発生が確認される箇所での駆除作業を実施した。 29年11月2日 （活動内容） 母藻設置 母藻の設置が効果的と考えられる箇所において、クロメ母藻の設置作業を実施した。 29年11月3日 （活動内容） 藻食生物の駆除（ブダイ、メジナ類） 藻類の着生に悪影響を与えていると考えられる箇所において、食害魚類（ブダイ）の駆除作業を実施した。  写真1. ガンガゼ駆除の様子①  写真2. ガンガゼ駆除の様子②  写真3. 母藻設置の様子			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：未調査 ○藻場の生き物：メジナ、ベラ、マダコ、ブダイ ○海藻（海草）：ガラモ、カジメ、アラメ ○植物：未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 31)

藻場の名称	六連島藻場		
海域（府県）名*1	響灘（山口県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	ガラモとアラメが繁茂していたが、平成 25 年に 30℃を超える高水温塊の影響でアラメが枯死し、現在はガラモを中心とする藻場を形成している。底質は礫、岩礁。サザエ、アワビ、ウニ類の好漁場となっている。		
保全の取り組み名称	食害生物（ムラサキウニ）除去、アラメの母藻及び種苗の投入		
実施団体名	六連島藻場保全グループ		
連絡先住所	〒750-0095 山口県下関市大字六連島 1		
代表者名	高 端 輝 雄	Email	
団体会員数	2 1 名	HP	
（活動の概要） 藻場保全のため、食害生物の除去や藻場の構成種である海藻の母藻及び種苗の投入を行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） 平成 2 9 年 5 月 2 4 日、6 月 1 2 日、8 月 2 9 日、1 1 月 1 3 日：食害生物除去 平成 2 9 年 5 月 2 5 日：ヒジキ母藻の設置 平成 2 9 年 6 月 1 2 日：モニタリング   ヒジキ母藻の設置  食害生物除去			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：アワビ、サザエ、ウニ類、メバル等の魚類、イカ類、ヨコエビ類等の甲殻類等 ○海藻（海草）：アラメ、カジメ、ヒジキ、ホンダワラ類、ワカメ等 ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み（No. 32）			
藻場の名称	北九州市小倉北区馬島地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	5 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	馬島活動組織		
連絡先住所	〒802-0092 北九州市小倉北区大字馬島 309 番地		
代表者名	前田 秀雄	Email	—
団体会員数	21 名	HP	—
（活動の概要） 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去している。			
（主な活動内容） 食害動物駆除			
（最近の活動実績） ・平成 28 年 7 月 31 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 8 月 7 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 8 月 27 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 11 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 24 日 食害生物の除去（ウニ類）			
食害生物の除去（ウニ類） 			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 2 種、褐藻綱 19 種、紅藻綱 22 種の計 43 種が出現			
緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アナアオサ
	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヘラヤハズ
			シウヤハズ
			アミジグサ
			サナダグサ
			ウミウチワ
			フクリンアミジ
			シマオオギ
	カヤモノリ目	カヤモノリ科	フクロノリ
	コンブ目	チガイノ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
			アラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ホンダワラ
			ヒジキ
			ノコギリモク
			トゲモク
			メタワラ
			ウスバノコギリモク
			ヨレモク
			エンドウモク
紅藻綱	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	テングサ属の一種
			オバクサ
スギノリ目	ナミイワタケ科		ナミイワタケ
	スギノリ科		ツノマタ
			ツノマタ属の一種
		ムカデノリ科	フダラク
		イバラノリ科	イバラノリ
		イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科
		オキツノリ科	オキツノリ
		ユカリ科	ユカリ
		ナミノハナ科	ホシバナミノハナ
マサゴシバリ目	ワツナギソウ科		ヒラワツナギソウ
			ワツナギソウ
イギス目	イギス科		アミクサ
	フジマツモ科		ヤナギノリ属の一種
			ソノ属の一種
			コザネモ
○藻場の生き物；11 科 19 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
		フサカサゴ科	フサカサゴ科
	タイ科	クロダイ	
		マダイ	
	ウミタナゴ	ウミタナゴ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	イシダイ科	イシダイ	
	メジナ科	メジナ*	
	ベラ科	コブダイ	
		ホシササノハベラ	
		キュウセン	
		ホンベラ	
	アイナメ科	クジメ	
	ハゼ科	サビハゼ	
		チャガラ	
		ドロメ	
フグ目	フグ科	ショウサイフグ	
		クサフグ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない。			

藻場と保全の取り組み (No. 33)

藻場の名称	北九州市小倉北区藍島地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	藍島藻場保全部会		
連絡先住所	〒802-0091 北九州市小倉北区大字藍島 32 番地 3		
代表者名	二見 隆	Email	—
団体会員数	7 4 名	HP	—
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去するほか、海藻の種苗生産を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・H28 年 7 月 30 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 8 月 20 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 10 月 15 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 10 月 24 日 海藻の種苗生産 ・H28 年 11 月 4 日 海藻の種苗生産 ・H29 年 2 月 25 日 海藻の種苗生産			
食害生物の除去（ウニ類）		海藻の種苗生産	
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等

は希少種

○海藻（海草）；海藻は、緑藻綱 5 種、褐藻綱 13 種、紅藻綱 16 種が出現し、単子葉植物綱（海草）1 種を合わせて計 35 種が出現

緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アナアオサ アオサ属の一種			
	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種			
	ミル目	ミル科	ミル ハイミル			
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヤハズグサ シワヤハズ アミジグサ ウミウチワ シマオオギ			
			コンブ目	チガイソ科 カジメ科	ワカメ ツルアラメ アラメ	
				ヒバマタ目	ホンダワラ科	ヒジキ ノコギリモク ヤナギモク ウスバノコギリモク エンドウモク
	紅藻綱	ウミゾウメン目	ガラガラ科	ヒラガラガラ		
		サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種 無節サンゴモ		
		テングサ目	テングサ科	マクサ オバクサ		
				スギノリ目	スギノリ科	カイノリ ツノマタ イバラノリ科 イバラノリ ツカサノリ科 トサカモドキ属の一種 イワノカワ科 エツキイワノカワ イワノカワ科 ユカリ科 ユカリ
		マサゴシバリ目	ワツナギソウ科 フシツナギ科		ヒラワツナギソウ フシツナギ	
			イギス目		フジマツモ科	ソゾ属の一種 イトグサ属の一種
		単子葉植物綱	オモダカ目		アマモ科	アマモ

○藻場の生き物；6 科 11 種の魚類が出現

スズキ目	メバル科	カサゴ
		メバル
	テンジクダイ科	ネンブツダイ
		マダイ
	スズメダイ科	スズメダイ
		ホシササノハベラ
	ベラ科	キュウセン
		ホンベラ
	ハゼ科	サビハゼ
		チャガラ
		クツワハゼ

希少種の特徴等

希少種は存在しない

藻場と保全の取り組み (No. 34)

藻場の名称	北九州市若松区大字安屋地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	脇田藻場保全部会		
連絡先住所	〒808-0124 北九州市若松区大字安屋 1742 番地		
代表者名	本田 剛	Email	
団体会員数	33 名	HP	
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去するほか、母藻の設置を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・平成 28 年 7 月 23 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 10 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 10 月 15 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 10 月 21 日 母藻の設置 ・平成 28 年 11 月 12 日 母藻の設置			
食害生物の除去（ウニ類）		母藻の設置	
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 1 種、褐藻綱 17 種、紅藻綱 15 種の計 33 種が出現			
緑藻綱	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヤハズグサ
			シワヤハズ
			アミジグサ属の一種
			ウミウチワ
			シマオオギ
	コンブ目	チガイノ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
			アラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ホンダワラ
			イノモク
			アカモク
			ノコギリモク
			ヤツマタモク
			マメタワラ
			ヤナギモク
			ウスバノコギリモク
			エンドウモク
紅藻綱	ウミゾウメン目	ガラガラ科	ソデガラミ
			ヒラガラガラ
	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			ヘリトリカニノテ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	オハバサ
	スギノ目	ナミイワタケ科	ナミイワタケ
		ツカサノリ科	トサカモドキ属の一種
		イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科
		ユカリ科	ホソユカリ
			ユカリ
	イギス目	イギス科	アミクサ
○藻場の生き物；14 科 26 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
	ハタ科	キジハタ	
	テンジクダイ科	ネンブツダイ	
	アジ科	マアジ	
		シマアジ	
	タイ科	クロダイ	
		マダイ	
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	ベラ科	オハグロベラ	
		ホシササノハベラ	
		イトベラ	
		キュウセン	
		ホンベラ	
		クジメ	
	カジカ科	スイ	
		オビアナハゼ	
		アサヒアナハゼ	
		アナハゼ	
	ネズツボ科	ネズツボ科	
	ハゼ科	クツワハゼ	
		ドロメ	
	ニザダイ科	ニザダイ	
カレイ目	ヒラメ科	ヒラメ	
フグ目	カワハギ科	ウマツラハギ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない			

藻場と保全の取り組み (No. 35)			
藻場の名称	北九州市若松区大字小竹地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	協の浦磯資源保全部会		
連絡先住所	〒808-0008 北九州市若松区大字小竹 3008 番地の 7		
代表者名	崎野 隆則	Email	
団体会員数	44 名	HP	
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去している。			
(主な活動内容) 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・平成 28 年 7 月 16 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 7 月 30 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 8 月 6 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 9 月 17 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 9 月 24 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 10 月 22 日 食害生物の除去 (ウニ類)			
食害生物の除去 (ウニ類)  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 3 種、褐藻綱 16 種、紅藻綱 18 種の計 37 種が出現			
緑藻綱	シオグサ目	ウキオリソウ科	アミモユ
		シオグサ科	シオグサ属の一種
	ミル目	ミル科	ミル
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	フタエオオギ
			ウミウチワ
			コナウミウチワ
			シマオオギ
	コンブ目	チガイソ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ジョロモク
			キレバモク
			ホンダワラ
			アカモク
			ノコギリモク
			ヤツマタモク
			マメタワラ
			ウスバノコギリモク
			ヨレモク
			エンドウモク
紅藻綱	ウミソウメン目	ガラガラ科	ソデガラミ
			ヒラガラガラ
	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノチ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	マクサ
			テングサ属の一種
			オバクサ
	スギノ目	ナミイワタケ科	ナミイワタケ
		ツカサノリ科	トサカモドキ属の一種
		イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科
		ユカリ科	ユカリ
		ミリン科	トサカナリ
	オゴノ目	オゴノリ科	カバノリ
	イギス目	コノハノリ科	スジウスバノリ
		フジマツモ科	イトグサ属の一種
○藻場の生き物；14 科 22 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
	ハオコゼ科	ハオコゼ	
	テンジクダイ科	ネンブツダイ	
	アジ科	マアジ	
	タイ科	クロダイ	
		マダイ	
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	インダイ科	インダイ	
	ベラ科	オハグロベラ	
		ホシササノハベラ	
		イトベラ	
		カミナリベラ	
		キュウセン	
		ホンベラ	
	カジカ科	アサヒアナハゼ	
		アナハゼ	
	トラギス科	トラギス	
	アイゴ科	アイゴ	
フグ目	カワハギ科	ウマツラハギ	
	フグ科	ヒガンフグ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない			

藻場と保全の取り組み (No. 36)

藻場の名称	北九州市地先関門地区沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	4 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	関門環境保全部会		
連絡先住所	〒803-0802 北九州市小倉北区東港1丁目5-17		
代表者名	藤島 賢太	Email	—
団体会員数	65 名	HP	—
(活動の概要) 藻場保全のため、「母藻の設置」のほか、「浮遊・堆積物の除去」を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 その他（浮遊・堆積物の除去）			
(最近の活動実績) ・H28年10月26日 浮遊・堆積物の除去 ・H28年11月1日 浮遊・堆積物の除去 ・H28年11月5日 母藻の設置 ・H28年12月22日 母藻の設置 ・H29年1月28日 母藻の設置			
浮遊・堆積物の除去  			
母藻の設置  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱3種、褐藻綱11種、紅藻綱18種の計32種が出現			
緑藻綱	シオグサ目 ミル目	シオグサ科 ミル科	フトジュズモ ミル ハイミル
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヘラヤハズ シワヤハズ アミジグサ サナダグサ ウミウチワ カヤモノリ目 コン目 ヒバマタ目
		カヤモノリ科 チガイソ科 カジメ科 ホンダワラ科	フクロノリ ワカメ ツルアラメ ヒジキ ノギリモク エンドウモク
紅藻綱	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種 無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	マクサ オバクサ カイノリ
	スギノリ目	スギノリ科	マルバツノマタ ツノマタ ツノマタ属の一種 ムカデノリ科 イバラノリ科 イワノカワ科 ユカリ科
	マサゴシバリ目	フシツナギ科 マサゴシバリ科	フシツナギ マサゴシバリ マサゴシバリ科
	イギス目	コノハノリ科	スジウスバノリ
○藻場の生き物；15科21種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ メバル	
	オニオコゼ科	オニオコゼ	
	アジ科	マアジ	
	イサキ科	イサキ	
	タイ科	クロダイ マダイ	
	ヒメジ科	ヒメジ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	イシダイ科	イシダイ	
	メジナ科	メジナ	
	ベラ科	ホシササノハベラ ホンベラ	
	アイナメ科	クジメ	
	カジカ科	アサヒアナハゼ	
	ヘビギンボ科	ヘビギンボ	
	ハゼ科	サビハゼ チャガラ アカオビシマハゼ	
フグ目	フグ科	ヒガンフグ コモシフグ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない			

3. 干潟の保全の取り組み事例

干潟と保全の取り組み (No. 37)

干潟の名称	西広干潟		
海域（府県）名*1	紀伊水道（和歌山県）	エリア名*1	湯浅湾
干潟の面積	10ha 出典：【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	広川町の沿岸に広がる砂質の干潟で、遠浅で海水浴場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	海岸とその周辺の一斉清掃		
実施団体名	広川町 企画政策課		
連絡先住所	〒643-0071 和歌山県有田郡広川町大字広 1500 番地		
代表者名		Email	
団体会員数	260 名	HP	
(活動の概要) 老人クラブ、婦人会、観光協会、商工会、役場職員互助会による海岸とその周辺の一斉清掃			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(最近の活動実績) ・H30 年 6 月 29 日 (活動内容) 海開きを前に清掃活動を実施			



西広海岸（引用：広川町 HP より）

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物：ナミノコガイ、イカリヒモナマコ、キンセンガニ、アカエイ、クサフグ、 ○海藻（海草）： ○植物：ハマボウ	
希少種の特徴等	
特に目立った希少種は認められていないが、この地域に一定面積のある前浜干潟があること自体が特筆すべきである。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No.38)

干潟の名称	有田川河口干潟		
海域(府県)名*1	紀伊水道(和歌山県)	エリア名*1	有田川河口(湯浅湾)
干潟の面積	1.5ha 出典:【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他()		
干潟の特徴	有田川河口の感潮域に現れる砂泥質の干潟。上流のダム建築や山林の荒廃で危機にあるが、昔は、「青ノリ」の産地として知られていた。また、特筆すべき生物が見られる。環境省の干潟500選にも選ばれている。		
保全の取り組み名称	親子参加による清掃活動と絵本の読み聞かせ		
実施団体名	もっとの会 おそうじクラブ		
連絡先住所	〒649-0316 有田市宮崎町 414-6		
代表者名	中村紀子	Email	n.noriko-1970@fc5.so-net.ne.jp
団体会員数	約40名	HP	
(活動の概要) 2007年3月に発足。毎月1回、1時間程度の清掃活動を実施。清掃後は、子どもたちの心の栄養になるよう絵本の読み聞かせを実施。また、自然の中での活動を通じ、想像力や自主性を伸ばせるよう、自然観察会、工作、お母さんの手作りクッキング等を行い、親子3世代が楽しみながら活動中。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績) ・平成30年5月27日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「ちがうねん」「はなのすきなうし」 手作りクッキング「みかん丸ごとゼリー」			
・平成30年4月29日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「どこにいったん」「バーバパパのはこぶね」 手作りクッキング「パンナコッタ」			
・平成30年3月18日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ「ハナミズキのみち」「かあさんのこもりうた」 手作りクッキング「みかん丸ごとゼリー」			
・平成30年2月25日 1時間の清掃後、自由遊び 絵本の読み聞かせ 手作りクッキング「三色雑寿司」			



関連する生物種等 ○野鳥：アオサギ、ゴイサギ、ミサゴ、トビ、チュウサギ ○干潟の生き物：イシマキガイ、ミヤコドリ、イボウミニナ、コゲツノブエ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、アミメノコギリガザミ、トゲノコギリガザミ、アシハラガニ、ハサミシヤコエビ、テッポウエビ、ニホンウナギ、アカメ、サツキマス、アユ、クロダイ、キチヌ、チワラスボ、トビハゼ、シロウオ、タビラクチ、ヒモハゼ、チクゼンハゼ、イソミミズハゼ、ミナミヒメミズハゼ、イドミミズハゼ、ヒナハゼ、アカオビシマハゼ ○海藻(海草)：アマモ、コアマモ ○植物：アシ、オギ	は希少種
希少種の特徴等	
当干潟は有田川河口に近く、南側に広がる干潟である。シオマネキ類や巻き貝類の生息で知られるが、魚類にもアカメやチワラスボなどの希少種が多く認められる。芦原があるため、これらを利用した生物が生息しているが、近年の開発等による影響で芦原の面積は減少傾向にある。	

写真：有田川河口干潟

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省：H28年～30年)参照

干潟と保全の取り組み (No. 39)

干潟の名称	和歌浦干潟 (和歌川河口干潟)		
海域 (府県) 名*1	紀伊水道 (和歌山県)	エリア名*1	和歌浦湾
干潟の面積	35ha 出典:【わかやま海域環境研究機構 HP】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他 ()		
干潟の特徴	和歌川 (旧紀の川) の河口に広がる干潟に亀の川や紀三井寺川等の小河川の河口干潟も加わり、さらに片男波という砂嘴により外海からの波浪を避けているため、非常に穏やかで遠浅な砂泥質の干潟が広がる。		
保全の取り組み名称	磯根漁場再生事業		
実施団体名	和歌山市		
連絡先住所	〒640-8511 和歌山県和歌山市七番丁 23		
代表者名	尾花 正啓	Email	
団体会員数	名	HP	
(活動の概要) 和歌浦地先の片男波干潟地帯にアサリ食害防止ネットを設置し、アサリ資源の回復を図る。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 ()			
(最近の活動実績) ・平成29年9月7日 耕うん作業後にアサリ食害防除ネットを設置。			
			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：アオサギ、ゴイサギ、ミサゴ、ヘラサギ ○干潟の生き物：ワカウラツボ、ハマグリ、ミヤコドリ、ハボウキガイ、タイラギ、ウミナナ、イボウミナナ、カワアイ、カニノテムシロガイ、キセワタ、フレリトゲアメフラシ、シオマネギ、ハクセンシオマネギ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、イシガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、ハサミシャコエビ、テッポウエビ、ニホンウナギ、トビハゼ、ヒモハゼ、チクゼンハゼ、エドハゼ、イソミミズハゼ、ミナミヒメミミズハゼ、アカオビシマハゼ等 ○海藻 (海草)：アマモ、コアマモ ○植物：アシ	
希少種の特徴等	
関西圏最大の干潟を利用して多くの生物が生息している。特に、大阪湾などでは絶滅に瀕している小型生物 (魚類、甲殻類等) がみられ、兵庫県の播磨等の瀬戸内とのつながり、種の連続性 (遺伝的な要因も含む) を示す生物がみられる。また、これら豊かな生物相を利用する渡り鳥の休息地ともなる。この干潟は歴史的にも古く万葉の時代から和歌にも詠まれ、生物の和名にも「わかうら」や「わか」の付くものもある。 一方で都市化によって芦原の消失や環境の変化によるアサリの減少が認められ、それらを回復させる取組が地元の漁協や NPO、行政、小学校などの連携によって進められている。	

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28 年~30 年) 参照

干潟と保全の取り組み (No. 40)

干潟の名称	和歌川河口干潟		
海域（府県）名*1	紀伊水道（和歌山県）	エリア名*1	和歌山県和歌山市
干潟の面積	35ha 出典：【和歌山県内の主な干潟（わかやま海域環境研究機構）】		
干潟のタイプ	前浜干潟（河口干潟） 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	・砂泥または泥の干潟 ・潮間帯の上部が堤防となっており、塩性湿地はないが、観海閣の北側で人工植栽されたヨシ原が若干見られる。 ・干潟は片男波（砂 嘴）と護岸で外海と隔てられており、亀ノ川河口付近で海域と接する。		
保全の取り組み名称	水産多面的機能発揮対策事業		
実施団体名	和歌浦活性化活動組織		
連絡先住所	〒641-0023 和歌山県和歌山市新和歌浦1-1		
代表者名	藪 豊	Email	
団体会員数	約40名	HP	
（活動の概要） 干潟における二枚貝を対象とした保全活動 地域の小学生を対象とした学習会の開催			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成29年5月24日 （活動内容） 二枚貝（アサリ等）の食害生物であるツメタガイの駆除状況			
			
平成29年10月11日			
（活動内容） 和歌山市立和歌浦小学校3年生を対象とした学習会の開催状況			
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物：二枚貝、ワカウラツボ ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
ワカウラツボ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU）） 分類：ニナ目（中足腹目） カワグチツボ科 特徴等：最初の発見地「和歌浦」を和名に冠する本県を代表する汽水産貝類。1954年に和歌浦産として記載されたが、長い間確認されなかった。しかし、熱心な研究者によって近年、同地において再確認された。 貝殻は小形、紡錘形状、堅固。殻皮は小豆色や橙褐色、時には黄白色、黒褐色など変異がある。伊勢湾から瀬戸内海、有明海の干潟、内湾、河口域に生息する。 生息条件は、内湾干潟、河口域の泥や砂泥に半ば埋まる岩、または堆積したゴミの下などに付着している。 減少の原因は内湾干潟とそれに続く河口域の環境悪化（汚染）によるものである。	
	

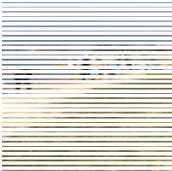
干潟と保全の取り組み (No. 41)

干潟の名称	男里川河口干潟		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	
干潟の面積	2.1 ha 出典：【環境省 HP（生物多様の観点から重要度の高い海域）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	規模は小さいが、塩生植物が豊富で底生動物も大阪湾ではここでしか見られない種が数多く生息している。（前出：環境省 HP より）		
保全の取り組み名称	清掃、観察会、環境学習、調査		
実施団体名	男里川干潟を守る会（平成 7 年 4 月設立）		
連絡先住所	〒590-0521 大阪府泉南市樽井 2-5-2		
代表者名	田中 正視	Email	masami-t@nike.eonet.ne.jp
団体会員数	20 名	HP	無し
（活動の概要） ・ 定例清掃・観察会：毎月 1 回（第 4 日曜） ・ 環境学習の実施：地元（泉南市・阪南市など）の幼稚園・保育所・小学校・中学校など ・ 調査活動など：「アマモ場再生」環境学習（講義・実習・現地活動） 「大阪湾見守りネット」（「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」）に設立以来参加、発表 「大阪湾生き物一斉調査」に平成 20 年第 1 回から参加（樫井川河口・男里川河口干潟） 「私の水辺大発表会」泉南子ども交流会に平成 18 年から参加、企画運営委員 「泉南市 ABC まつり」「魚庭（なにわ）の海づくり大会」などでのパネル展示発表など			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成 29 年 5 月 27 日 第 10 回大阪湾生き物一斉調査（樫井川河口） ・ 平成 29 年 6 月 8 日 第 10 回大阪湾生き物一斉調査（男里川河口干潟） ・ 平成 29 年 9 月 3 日 泉南市 ABC 委員会環境美化運動（ハゼ釣り）			
			

関連する生物種等 は希少種 ○野鳥：渡り鳥の中継地、ハヤブサ、ミサゴなど ○干潟の生き物： ハクセンシオマネギ 、 シオマネギ 、ヤマトオサガニ、トビハゼなど ○海藻（海草）： ○植物：ヨシ、 ハマヒルガオ 、 ハマサジ 、 ハママツナ
希少種の特徴等

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 42)

干潟の名称	西宮市甲子園浜		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
干潟の面積	10ha 出典：【（鳥獣保護区特別保護区の甲子園浜生物保護地区指定：2006.1）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	自然の砂浜・干潟・磯がある貴重な浜。砂浜の東側には野鳥の貴重な餌場で、面積が少なくなりつつある干潟があり、国設浜甲子園鳥獣保護区・特別保護区となっている。		
保全の取り組み名称	甲子園浜の干潟等、海浜の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	特定非営利活動法人 海浜の自然環境を守る会		
連絡先住所	〒663-8143 西宮市枝川町 19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付		
代表者名	前田 文信	Email	
団体会員数	90 名	HP	http://www.npo-koshienhama.com/
（活動の概要） 西宮市甲子園浜及び干潟に飛来する野鳥を保護するため、春の渡りの時期保護区への立ち入り禁止の啓発を行う。野鳥観察会、生き物観察会を実施、また植物を含む生き物の調査を実施。海浜清掃。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） - 平成 29 年 4 月 29 日 干潟の鳥観察会 - 平成 29 年 4 月 29 日～5 月 7 日 特別鳥獣保護区立ち入り禁止啓発チラシ配り - 平成 29 年 5 月 27 日 第 10 回大阪湾生き物一斉調査 - 平成 29 年 6 月 4 日 海浜清掃 参加 104 名 - 平成 29 年 6 月 10 日 甲子園浜遺跡探検 - 平成 29 年 6 月 17 日 外来植物観察会 参加 20 名 - 平成 29 年 7 月 17 日 海浜清掃 参加 90 名 - 平成 29 年 9 月 24 日 海浜清掃 参加 108 名 - 平成 29 年 10 月 1 日『写真でよみがえる甲子園浜』発行 - 平成 29 年 10 月 2 日～9 日 甲子園浜 1 2 ヶ月展開催 - 平成 29 年 11 月 5 日 伊藤ハム合同クリーンアップ 参加計 130 名    6/10 遺跡探検 6/17 外来植物観察会 11/5 クリーンアップ			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： スズガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、コガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ウミネコ、ユリカモメ、カワウ、アオサギ、キョウジョシギ、イソシギ、シロチドリ、コアジサシ、チュウシャクシギ、ダイサギ、イソヒヨドリ ○干潟の生き物：イソガニ、ケフサイソガニ、イシガニ、ユビナガホンヤドカリ、ウミナナ、アサリ、フジツボ、イボニシ、イシダタミガイ、クチバガイ、タテジマイソギンチャク、スナガニ、テッポウエビ、 ○海藻（海草）：イソダンツウ、ムカデノリ ○植物：ハマビシ、ハマボウフウ、ハマゴウ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、コウボウシバ、コウボウムギ、ツルナ、ハマオモト	
希少種の特徴等	
コアジサシ（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU）、兵庫県 B ランク種） 分 類：チドリ目カモメ科 特徴等：日本に野鳥として渡来し、河川や海岸でコロニーを作り集団繁殖する。大阪湾沿岸では甲子園浜と西宮浜でのみ 100 羽以上の成鳥からなる大規模繁殖コロニーが形成される。日豪等の二国間渡り鳥条約に基づき、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で「国際希少野生動植物種に指定されており、環境省では「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」を取りまとめ、コアジサシ繁殖地の保全・配慮の考え方やその具体的な手法等を示しています。開発事業等を行うものだけでなく、コアジサシの保護活動等に取り組む関係者を含め、幅広く活用されることを期待されています。甲子園浜では、沖埋立地の空き地が減って、営巣が激減していると思われる。  ハマビシ（環境省絶滅危惧ⅠB 類(EN)、兵庫県 A ランク種） 分 類：被子植物門双子葉類離弁花群ハマビシ科 特徴等：海岸や周辺の砂地に生育する 1 年草または越年草。甲子園浜に見られるものは、2003 年淡路島の集団の種子を移植したもので、もとから 自生していたものではない。2016 年に 30m 西の海岸に新たに出現したものが 2017 年も花咲いた。 	

干潟と保全の取り組み (No. ④③)

干潟の名称	須磨海岸		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	瀬戸内海東部
干潟の面積	— ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	ホトトギスマットの形成により、生物多様性の再生・創出を妨げる材料となっている。		
保全の取り組み名称	潮干狩りの復活を目指した須磨海岸の里海づくり		
実施団体名	特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会		
連絡先住所	〒655-0007 神戸市垂水区多聞台 3-11-12-603		
代表者名	島本信夫	Email	shimamoto@mtf.biglobe.ne.jp
団体会員数	個人 61 名 団体 4 団体	HP	http://www.7b.biglobe.ne.jp/~yutakana-morikawaumi/
(活動の概要) 流域の森・川・海を巡る物質循環のバランスを回復させ、持続可能な自然共生型、資源循環型の社会づくりに貢献する。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（競合種の防除 ）			
(最近の活動実績) - 平成 28 年 9 月 25 日 / 10 月 23 日 / 11 月 13 日 / 平成 29 年 2 月 26 日 ホトトギスマット防除活動 - 平成 29 年 4 月 15 日 里海づくりと漁業体験 - 平成 29 年 9 月 23 日 / 11 月 5 日 産卵母貝の育成施設設置 (9/23)、食害種の駆除 (11/5)  ホトトギスマットの防除活動  産卵母貝の保護育成施設 (被覆網付き鉄枠)			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
須磨海岸に出現する水生生物の種リスト及び希少種の分類は別紙のとおり。 うち希少種はアダムスタマガイ（環境省 RL 準絶滅危惧）、タイラギ（兵庫県 C ランク）、ハボウキガイ（兵庫県 A ランク）、シオフキガイ（兵庫県 A ランク）、ミルキイガイ（兵庫県・神戸市 A ランク）、マテガイ（兵庫県要注目種）、ヒガシナメクジウオ（環境省絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県 B ランク）	
希少種の特徴等	
アダムスタマガイ（環境省準絶滅危惧） 分 類：軟体動物 腹足綱 盤足目 タマガイ科 特徴等：殻径約 2 cm の球形で殻はやや厚い。蓋は石灰質で白色、蓋の溝は浅く狭い。日本固有種で、房総半島以南から九州にかけて分布する。内湾の泥質干潟から潮下帯にすむ。以前は干潟域に普通に見られたが、干潟の消滅や浚渫、底質の有機汚濁などの影響で生息数を減らしている。保全するためには、干潟の保全や、内湾域の水質の保全が必要とされる。	
	
ヒガシナメクジウオ（環境省絶滅危惧Ⅱ類、兵庫県ランク） 分 類：脊索動物 頭索綱 ナメクジウオ目 ナメクジウオ科 特徴等：体長約 5 cm で、左右から扁平な細長い形をしている。鱗はなく、半透明で、普段は砂の中に潜って生活している。日本では関東から九州にかけての太平洋岸と瀬戸内海に分布が集中している。かつては干潟などに普通に見られたが、干潟の消滅や底質悪化により激減している。	
	

干潟と保全の取り組み (No. 44)

干潟の名称	須磨海岸		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
干潟の面積	10ha 出展：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖洲 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	地質は、砂質であるがホトトギスマットが海底を覆う状況にある。		
保全の取り組み名称	干潟等の保全		
実施団体名	神戸のアサリを復活させる会		
連絡先住所	〒655-0892 神戸市垂水区平磯 3-1-10		
代表者名	岡田真一	Email	
団体会員数	27名	HP	
（活動の概要） 干潟の耕うん、漂流漂着物の除去			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（現在の活動実績） ・28年 6月 1日～ 2日 （活動内容） 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。 ・28年10月 2日 （活動内容） 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。 ・28年10月26日 （活動内容） 耕うんを行った場所のモニタリングを行い、耕うん後の干潟の状況を確認した。 ・29年 6月24日、11月3・4日 （活動内容） 漁船によって耕うん機を曳き、干潟域を耕した。			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草） ○植物	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 45)

干潟の名称	尼崎運河内、北堀運河		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	東部海域
干潟の面積	8.1 m ² 出典：【現地測量による】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	尼崎運河水質浄化施設内に設置されている人工干潟であり兵庫県事業として2012年3月に竣工した。水質浄化施設は、通水式の生物浄化手法により水中の栄養塩・懸濁物を除去し、貝や藻類などの浄化生物は適切な時期に人力で回収し堆肥材料として活用している。本干潟は、浄化プロセスの末端に位置しており、干潟の浄化力と生物多様性の創出を期待され、市民参加による順応的管理がなされている。		
保全の取り組み名称	地域協働による尼崎運河の環境改善と活用		
実施団体名	尼崎運河〇〇クラブ		
連絡先住所	〒660-0083 尼崎市道意町7-21		
代表者名	中岡禎雄	Email	sadao_7028@yahoo.co.jp
団体会員数	23 名	HP	https://www.facebook.com/ama21canal/

（活動の概要）

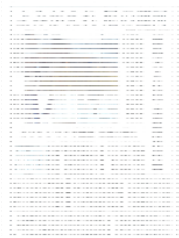
活動は、生物多様性創出、地域活性化を目標としており、「里海」づくり活動とも言える。本活動は、水質浄化施設建設に係る現地技術実証試験の開始に合わせて始められ、2007年から約10年間続いている。参加者は、主に地元の中学生（成良中学校ネイチャークラブ）、高校生（尼崎小田高等学校）、一般参加者であり、企画・指導は主に、徳島大学（上月・山中研究室）、尼崎キャナルガイドの会、NPO 人と自然とまちづくりが担当している。

生物多様性創出活動では、ヨシの移植と刈り取り（水質浄化に寄与）、生物生息に適した潮だまりや磯場の創出、底質管理を目的とした地盤形状改変、環境モニタリングなどを行っている。

地域活性化としては、刈り取ったヨシの活用方法として“ミニすだれ”の製作方法を考案し、すだれ製作会や活用コンテストなどの開催により、世代間交流の場を提供している。

以上の活動は、科学的知見に基づき、市民参加による順応的管理により進められており、干潟の底質調査なども市民協働により実施しており、環境学習の機会にもなっている。本干潟では尼崎市が主催している小学生向けの環境学習会も年に10回程度実施されている。

本活動を含む取り組みは、県外からも注目されており、大阪湾再生行動計画（第2期）アピールポイントとして選定、石井国土交通大臣視察（2017年5月21日）、成良中学校の「第52回全国野生生物保護実績発表大会」にて「林野庁長官賞」を受賞、新聞報道（朝日新聞2017年12月6日、他）などがある。



（主な活動内容）

種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携
その他（生物生息場創出、水質浄化、地域活性化、世代間交流）

（最近の活動実績）

- 2017年 7月 16日
（活動内容）：干潟の生物調査、順応的管理ワークショップ



- 2017年 8月 20日
（活動内容）：干潟の地形改良、ミニすだれづくり講座



- 2017年 9月 10日
（活動内容）：干潟の生き物探し調査、ミニすだれづくり講座



- 2018年 2月 18日
（活動内容）：ヨシの刈り取り



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等 は希少種
○野鳥：ホシハジロ、カルガモ、キンクロハジロ（もしくはスズガモ）、オオバン、イソヒヨドリ、ササゴイ、ウミウ、カワセミなど ○干潟の生き物：チチュウカイミドリガニ、ヒライソガニ、イソガニ、フナムシなど ○海草（海草）：付着性微細藻類 ○植物：ヨシ（アシ）
希少種の特徴等
ホシハジロ：冬季に飛来し越冬する  カワセミ（他県では危惧種）：干潟に飛来した様子を確認 

干潟と保全の取り組み (No. 46)

干潟の名称	この浦舟池干潟		
海域（府県）名 ^{*1}	播磨灘（兵庫県）	エリア名 ^{*1}	瀬戸内海東部
干潟の面積	0.013ha 出典：【 （ － ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	海と触れ合える場として造られた「あらい浜風公園」にある海水池、「この浦舟池」内に創出された人工の干潟		
保全の取り組み名称	あらい浜風公園この浦舟池内の干潟創出プロジェクト -よりよいジュンカンを目指して-		
実施団体名	Gata girl		
連絡先住所	〒675-0039 加古川市加古川町栗津 536		
代表者名	前田 清子	Email	gatagirl777@gmail.com
団体会員数	7 名	HP	https://www.facebook.com/higatagirl/
（活動の概要） ・生物多様性の向上 ・干潟の機能強化 ・保全活動の活性化			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成 28 年 7 月 16 日／17 日 総合（底質・生物・水質）調査 9 月 19 日 生物調査、海藻回収 ・平成 28 年 11 月 11 日 干潟創出作業 ・平成 28 年 11 月 11 日 総合（底質・生物・水質）調査、生物投入、耕耘作業 ・平成 28 年 12 月 17 日 看板づくり、海藻回収 ・平成 29 年 1 月 21 日 総合（底質・生物・水質）調査、ヨシ刈り、ヨシ笛作り ・平成 29 年 3 月 18 日 看板設置 ・平成 29 年 8 月 2 日 干潟創出作業（地盤下げ） ・平成 29 年 8 月 19 日 総合（底質・生物・水質）調査 ・平成 29 年 10 月 7 日 総合（底質・生物・水質）調査、 ・平成 29 年 11 月 4 日、5 日 ヨシ刈り、ヨシ舟づくり			
   地元学童とヨシ刈り，ヨシ笛作り 地元学童と干潟創出作業 ヨシ舟づくり			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：アオサギ、マガモ、 ○干潟の生き物：ヤマトオサガニ、イソガニ、コメツキガニ、アシハラガニ、ジャンボタニシ タマキビ、フトヘナタリ、アラムシロ、タイワンガザミ ○海藻（海草）：シオグサ、スジアオノリ ○植物：ヨシ	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

^{*1}：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 47)

干潟の名称	唐船海岸		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
干潟の面積	39ha 出展：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖洲 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	地質は、砂泥質となっており、近隣河川の堤防改修等により、海域への砂の流入が減少し、貝類の生息域が減少にある。		
保全の取り組み名称	干潟の保全		
実施団体名	赤穂市漁協豊かな干潟を守り育てる会		
連絡先住所	〒678-0215 赤穂市御崎 1798-1		
代表者名	成林宏次	Email	
団体会員数	25名	HP	
(活動の概要)			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(現在の活動実績)			
・28年 8月 2日 (活動内容) 耕うんの行う予定の場所のモニタリングを行った。			
・28年 8月 8～10日、12日、18～20日、22～23日、27日、29～30日 9月 1～2日、9～10日、12～17日、19日、 (活動内容) 漁船又は人力で耕うん機を曳き、干潟域の底質改善を行った。			
・28年 9月21日 (活動内容) 保護区の設定を行った。			
・28年11月 4日、12日、15～16日、18～19日 (活動内容) 機能性発揮生物（アサリ）の移植を行った。			
・29年 1月17日 (活動内容) 耕うんを行った場所のモニタリングを行った。			
・29年11月11・15・16・18・19・20・25日、2月24日、3月19日 活動内容) 機能性発揮生物（アサリ）の移植を行った。			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 48)

干潟の名称	さぬき市鴨庄地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（香川県）	エリア名*1	瀬戸内海東部
干潟の面積	2.5 ha 出典：【平成28年度 実施団体調べ】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	志度湾東部、鴨部川の河口に位置する干潟。底質は砂、小礫。河川から流入する砂の堆積が見られる。		
保全の取り組み名称	干潟の保全		
実施団体名	鴨庄漁協活動組織		
連絡先住所	〒769-2102 香川県さぬき市鴨庄 4374 番地 30		
代表者名	山本 浩智	Email	
団体会員数	257 名	HP	
（活動の概要） 漁業者や地域住民等が干潟を耕うんし、アサリ等の生物が生息しやすい好気的環境に底質の改善を図る。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ 耕うん ）			
（最近の活動実績） - 平成27年11月29日 干潟の耕うん 参加者 42 名 - 平成28年2月13日 干潟の耕うん 参加者 49 名 - 平成28年3月12日 干潟の耕うん 参加者 50 名 - 平成28年12月17日 干潟の耕うん 参加者 37 名			
 人力による耕うん		 トラクターによる耕うん	

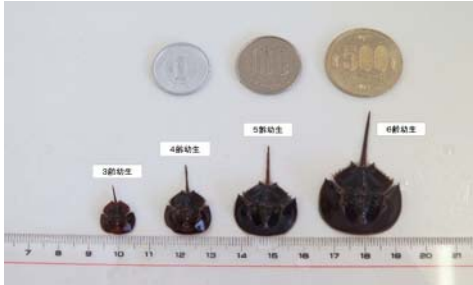
関連する生物種等 は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物：アサリ、シジミ、マテガイ、タイラギ、アカニシ、ツメタガイ、ホトトギスガイ、ウミニナ、ホソウミナ、ヘナタリ、フトヘナタリ、クルマエビ、ガザミ、テッポウエビ、アナジャコ ○海藻（海草）： ○植物：
希少種の特徴等
・ヘナタリ（環境省準絶滅危惧(NT)） 分 類：軟体動物門 腹足綱 吸腔目 キバウミナ科 ・フトヘナタリ（環境省準絶滅危惧(NT)） 分 類：軟体動物門 腹足綱 吸腔目 キバウミナ科

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 49)

干潟の名称	大殿洲・西大島新田・夏目・鳥の江・東村・天神		
海域（府県）名*1	備讃瀬戸（岡山県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【（ ）】		
干潟のタイプ	☑前浜干潟 ☑河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	砂泥で約半分を細砂が占めている。含水率は概ね25%で、年間を通じて硫化物は0.03mg/g以下である。干潟にはカブトガニが生息し、周辺の一部の砂浜はカブトガニの産卵に適しており、平成21年から毎年自然産卵が確認されている。		
保全の取り組み名称	リフレッシュ瀬戸内（海岸クリーン作戦）		
実施団体名	笠岡市立カブトガニ博物館・笠岡市建設管理課		
連絡先住所	〒714-0043 岡山県笠岡市横島1946-2（カブトガニ博物館）		
代表者名	惣路 紀通	Email	kabutogani@city.kasaoka.okayama.jp
団体会員数	約1,000名	HP	http://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/kabutogani/
（活動の概要） 天然記念物「カブトガニ繁殖地」を含む笠岡市の神島水道一帯の清掃活動を行う。毎年、約6トンのゴミを回収することができており、環境保全に繋げることができている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 ☑干潟清掃 研修会・学習会 ☑他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・2017年 7月30日 （活動内容） ○海岸清掃			
 			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等 〇野鳥： コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、マガモ、カルガモ、カワウ、ウミウ、チュウシャクシギ、イソシギ、イソヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミサゴ 〇干潟の生き物：カブトガニ、イソガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、イシガニ、マメコブシガニ、ツノナガコブシガニ、ハクセンシオマネキ、チゴガニ、オサガニ、ヤマトオサガニ、エビジャコ、クルマエビ、ニオガイ、ニッポンマメアゲマキ、シマメノウフネガイ、オリイレボラ、オオヘビガイ、マルテンスマツムシ、セキモリ、スガイ、コシダカガンガラ、イシダタミガイ、アカニシ、ツメタガイ、サキグロタマツメタ、ゴマフダマ、ニュウトウタテジマウミウシ、マダラウミウシ、クロシタナシウミウシ、ウミフクロウ、キセワタ、カノコキセワタ、アカエラミノウミウシ、ヤマトウミウシ、イイダコ、ヒメイカ、ミミイカ、タツノオトシゴ、マハゼ、スジハゼ、ボラ、アカオビシマハゼ、ギンボ、イダテンギンボ、ナベカ、イソギンボ、カレイの仲間、ウスバシヤミセンガイ、スズメガイダマシ 〇海藻（海草）： 〇植物：	は希少種
希少種の特徴等	
（希少種が存在しない場合は「希少種は存在しない」と記述。） 概ね3歳幼生～10歳幼生までのカブトガニ  	

干潟と保全の取り組み (No. 50)

干潟の名称	大蔵洲		
海域（府県）名 ^{*1}	備讃瀬戸（岡山県）	エリア名 ^{*1}	
干潟の面積	ha 出典：【（ ）】		
干潟のタイプ	☑前浜干潟 ☑河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	砂泥で約半分を細砂が占めている。含水率は概ね25%で、年間を通じて硫化物は0.03mg/g以下である。干潟にはカブトガニが生息し、周辺の一部の砂浜はカブトガニの産卵に適しており、平成21年から毎年自然産卵が確認されている。		
保全の取り組み名称	海辺の学校		
実施団体名	笠岡市立カブトガニ博物館		
連絡先住所	〒714-0043 岡山県笠岡市横島 1946-2		
代表者名	惣路 紀通	Email	kabutogani@city.kasaoka.okayama.jp
団体会員数	約40名	HP	http://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/kabutogani/

（活動の概要）

カブトガニの生息している海には、どのような生物がいるのかを小学生を対象に観察・学習する。また、アサリを用いた海水の浄化実験や、当館で育成したカブトガニの幼生放流をおこない、環境学習と命の大切さを学ぶ機会となっている。

（主な活動内容）

☑種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 ☑研修会・学習会 他との協同連携
その他（ ）

（最近の活動実績）

・2017年 8月 5日

（活動内容）

- 海辺の生物観察
- アサリの浄化実験
- カブトガニの幼生放流



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等

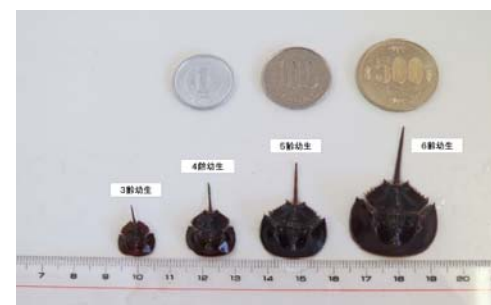
は希少種

- 野鳥：コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、マガモ、カルガモ、カワウ、ウミウ、チュウシャクシギ、イソシギ、イソヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミサゴ
- 干潟の生き物：カブトガニ、イソガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、イシガニ、マメコブシガニ、ツノナガコブシガニ、ハクセンシオマネキ、チゴガニ、オサガニ、ヤマトオサガニ、エビジャコ、クルマエビ、ニオガイ、ニッポンマメアゲマキ、シマメノウフネガイ、オリイレボラ、オオヘビガイ、マルテンスマツムシ、セキモリ、スガイ、コシダカガンガラ、イシダタミガイ、アカニシ、ツメタガイ、サキグロタマツメタ、ゴマフダマ、ニュウトウタテジマウミウシ、マダラウミウシ、クロシタナシウミウシ、ウミフクロウ、キセワタ、カノコキセワタ、アカエラミノウミウシ、ヤマトウミウシ、イイダコ、ヒメイカ、ミミイカ、タツノオトシゴ、マハゼ、スジハゼ、ボラ、アカオビシマハゼ、ギンボ、イダテンギンボ、ナベカ、イソギンボ、カレイの仲間、ウスバシヤミセンガイ、スズメガイダマン
- 海藻（海草）：
- 植物：

希少種の特徴等

（希少種が存在しない場合は「希少種は存在しない」と記述。）

概ね3齢幼生～10齢幼生までのカブトガニ



干潟と保全の取り組み (No. ⑤①)

干潟の名称	尾道市向東町歌大磯・小磯（向東干潟）		
海域（府県）名*1	備後灘（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	10 ha 出典：【（ ）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	アサリ漁場として利用されている。		
保全の取り組み名称			
実施団体名	尾道東部漁業協同組合		
連絡先住所	〒722-0062 尾道市向東町 12635-2		
代表者名	恵谷 一雄	Email	
団体会員数	235 名	HP	
(活動の概要)			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(最近の活動実績)			
・平成 29 年 7 月 9 日（日） 海岸清掃 （参加者 205 名）			
			

関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	

干潟と保全の取り組み (No. 52)

干潟の名称	観音干潟、灘干潟、戸崎干潟、百島干潟		
海域（府県）名*1	備後灘（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【（）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（）		
干潟の特徴	地区の海岸線には、自然干潟や国・県が造成した人工干潟が点在し、その干潟では地区の漁業にとって重要なアサリを中心とした二枚貝類の漁業が行われている。		
保全の取り組み名称	水産多面的機能発揮対策事業		
実施団体名	広島県東部アサリ協議会（浦島地区）		
連絡先住所	〒720-0551 尾道市浦崎町乙 4175 浦島漁業協同組合		
代表者名	吉岡 照明	Email	
団体会員数	名	HP	
（活動の概要） 尾道市ではアサリ漁獲量が減少しており、干潟の有する水産有用種の増殖機能等の低下が懸念されています。この状況を改善するため、アサリ漁場の耕耘や漂着物の処理を行うことで干潟の保全を図るとともに、地元小学生へ教育の場を提供することで、干潟の魅力を伝えています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（）			
（最近の活動実績） ・平成 29 年 10 月 4 日 干潟学習会開催（地元小学生 25 名、中高生 7 名等が参加）   ・平成 29 年 4～11 月 複数の干潟で耕耘、網（食害防止用）のメンテナンス、モニタリング等を実施  			

関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	

干潟と保全の取り組み (No. 53)

干潟の名称	松永湾地先		
海域（府県）名*1	備後灘（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【（）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（）		
干潟の特徴			
保全の取り組み名称	アサリの住める干潟を目指して。		
実施団体名	環境市民ネットまつなが		
連絡先住所	〒729-0104 広島県福山市松永町 1-24		
代表者名	国竹 卓美	Email	
団体会員数	15 名	HP	
（活動の概要） ・松永湾の干潟及び湾岸道路の清掃（年6～7回） ・生物、土壌、水質調査の実施（年2～3回） ・夏の海辺教室の実施（年1回）			
（主な活動内容） 種の供給・再生 ☐ 調査研究 ☐ 干潟清掃 ☐ 研修会・学習会 ☐ 他との協同連携 ☐ その他（）			
（最近の活動実績） 平成 29 年 4 月 21 日（金） 干潟及び湾岸道路の清掃 〃 5 月 26 日（金） 〃 〃 5 月 27 日（土） 松永湾干潟生物・土壌・水質調査 〃 6 月 19 日（月） 干潟及び湾岸道路の清掃 〃 8 月 6 日（日） 夏の海辺教室 〃 9 月 15 日（金） 干潟及び湾岸道路の清掃 〃 11 月 15 日（水） 〃			
   			

関連する生物種等	☐ は希少種
○ 干潟の生き物 スナガニ、ハクセンシオマネキ、トビハゼ、コメツキガニ、チゴガニ、イシガニ、テッポウエビ、オキシジミ、アサリ、イボニシ、アオガイ、オオギガニ、イソカニダマシ、カリガネエガイ、バフンウニ、タマキビガイ、イワフジツボ、ムラサキイガイ、イソゴカイ、コメツキガニ、アナジャコ、ホソウミニナ、イシダタミガイ、フトヘナタリ、ヒライソガニ、イソゴカイ、ウズマキゴカイ、イカリナマコ、スガイ、ケガキ、マガキ、イトゴカイ、ヒザラガイ、シロスジフジツボ、ミミエガイ、カクベンケイ、イトゴカイ、コウダカガンガラ ○ 海藻（海草） アマモ ○ 植物 ハマサジ、フクド、ハマダイコン	
希少種の特徴等	

干潟と保全の取り組み (No. 54)

干潟の名称	有明浜		
海域（府県）名*1	備後灘（香川県）	エリア名*1	
干潟の面積	50.6 ha 出典：【水生生物の保全に係る水質環境基準の類型指定について（第7次答申）（環境省）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	全長2kmの自然砂浜と干潟が貴重な浜である。砂浜の北側には、九十九山の岩場があり、干潟と瀬戸内海有数の海浜植物群落の宝庫である。		
保全の取り組み名称	有明浜の自然環境を守るための普及啓発活動		
実施団体名	有明浜の海浜植物を観察する会		
連絡先住所	〒768-0061 香川県観音寺市八幡町三丁目4番53号		
代表者名	小西 武利	Email	ariakehamanoasagijiji@docomo.ne.jp
団体会員数	23名	HP	なし
（活動の概要） 有明浜及び干潟の保護育成活動や海浜植物観察会・干潟の学習会を開催し、砂浜と干潟の環境保全活動を行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 <u>調査研究</u> <u>干潟清掃</u> <u>研修会・学習会</u> <u>他との協同連携</u> その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成29年5月15日 （活動内容）有明浜の海浜植物保護育成計画の現地指導（広島工業大学） - 平成29年5月20日 （活動内容）観音寺ボーイスカウトに対してアサギマダラ蝶のマーキング体験会と海浜ゴミ拾い活動を実施 - 平成29年5月21日 （活動内容）市観光協会と共催でアサギマダラ蝶のマーキング体験会を開催（参加者36人） - 平成29年6月22日 （活動内容）有明浜スナビキソウ保護活動を実施（警告用看板の交換作業） - 平成29年9月14日 （活動内容）有明浜の樹木伐採とウチワサボテンの除去作業を実施 - 平成29年9月26日 （活動内容）台風18号に伴う有明浜のゴミ拾い - 平成29年9月28日 （活動内容）アサギマダラ飛来中ののぼり10本を市内に設置し啓発活動			



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ウミウ ○干潟の生き物： フジナミガイ、ムラサキガイ、イボサキガイ、マテガイ ○海藻（海草）：未調査 ○植物： コナガエのアカカゴダケ…砂浜にて発見。四国内では有明浜のみ。ハマゴウに寄生。	
希少種の特徴等	
➤ フジナミガイ（絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）） 分 類：マルスダレガイ目 シオサザナミガイ科 ➤ ムラサキガイ（絶滅危惧Ⅱ類（VU）） 分 類：マルスダレガイ目 シオサザナミ科 特徴等：干潟のうち、砂の硬い場所の約30～40cm下部に生息している。有明浜から仁尾町の干潟に分布している。 ➤ イボキサゴ（準絶滅危惧（NT）） 分 類：古腹足上目 ニシキウズ/ニシキウズガイ科 特徴等：近年、生息数が急激に減少している。 ➤ コナガエノアカカゴダケ（絶滅危惧Ⅱ類（VU）） 分 類：スッポンタケ目 ツマミタケ科	
コナガエのアカカゴダケ（砂浜にて発見）	

干潟と保全の取り組み (No. 55)

干潟の名称	西条市加茂川干潟		
海域（府県）名*1	燧灘（愛媛県）	エリア名*1	瀬戸内海中部
干潟の面積	383 ha 出典：【第4回自然環境保全基礎調査 海域生物調査報告書（干潟、藻場、サンゴ礁調査）第1巻干潟 1994年】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	瀬戸内海に流入する加茂川、中山川の河口に形成された砂泥質の干潟。愛媛県に現存する干潟の5割を占める。野鳥の餌場、観察場となっている。		
保全の取り組み名称	加茂川干潟、海浜の自然環境を守るための普及啓発事業。		
実施団体名	禎瑞環境クラブ		
連絡先住所	〒793-0061 愛媛県西条市禎瑞 1624 番地 西条市漁業協同組合内 禎瑞環境クラブ気付		
代表者名	安藤 雅康	Email	nrp58879@nifty.com
団体会員数	179 名	HP	-
(活動の概要) 西条市加茂川干潟に飛来する野鳥の観察会、生き物観察会及び環境普及啓発活動の実施。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(最近の活動実績) - 平成 28 年 6 月 25 日 海岸清掃 12 名 - 平成 28 年 8 月 21 日 海岸清掃 39 名 - 平成 28 年 11 月 20 日 海岸清掃 47 名 - 平成 29 年 6 月 25 日 海岸清掃 20 名 - 平成 29 年 9 月 24 日 海岸清掃 20 名 - 平成 28 年 7 月 16 日 干潟の保全 アサリの移植 (袋に砂、小石、アサリを入れて吊す) - 平成 28 年 9 月 5 日 干潟の保全 アサリの移植場所を設置 (杭を入れ、周りを網で囲う) - 平成 29 年 2 月 4 日 干潟の保全 アサリの移植 (かごの中に砂、小石、アサリ、ハマグリを入れる) - 平成 29 年 6 月 24 日 干潟の保全 (アサリの稚貝をかごの中に入れ調査) - 平成 29 年 8 月 22 日 干潟の保全 アサリ調査 (かごの中の泥を除き、砂、小石に入れ替える) - 平成 29 年 2 月 4 日 干潟の保全 アサリの移植 (かごの中に砂、小石、アサリ、ハマグリを入れる。) - 平成 28 年 11 月 12 日 加茂川干潟生き物調査 14 名 - 平成 28 年 11 月 13 日 加茂川干潟で小学生による自然観察会 小学生 40 名・保護者 15 名			

かごの中にアサリを移植



海岸清掃活動



干潟の観察会



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	
○野鳥： ナベツル、カモ、ウミウ、カモメ ○干潟の生き物：カニ、エビ、ニシツボ、アサリ、ハマグリ ○海藻（海草）： ○植物：	は希少種
希少種の特徴等	
ナベツル（環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU）） 分類：ツル目 ツル科 特徴等：冬鳥として、広い農耕地や河原の中州に渡来する。警戒心が強い。人や車との距離が十分に保たれ、安心して菜食できる農耕地やねぐらに適した場所が少ない。また、圃場整備による乾田化などにより、餌の減少などが懸念される。愛媛県内では、西条市、松山市、松前町、伊予市、大洲市、西予市、愛南町等に渡来した記録がある。	

干潟と保全の取り組み (No. 56)

干潟の名称	宮島大元公園沖の干潟（宮島水族館西側の桟橋より東側の浜、廿日市市宮島町 第一種共同漁業権共代37号の区域の一部）		
海域（府県）名*1	広島湾	（広島県）	エリア名*1
干潟の面積	ha 出典：【（3.750 m ² ）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	大元公園（宮島水族館）沖の干潟は、宮島の弥山から流れる紅葉谷川と大元川の二つの河川の土砂の流出で干潟が成り立っている。干潟には多種多様な生物が生息していて、沖合にはアマモ、コアマモも生息する。この周辺は干潟観察や学習会に適している環境がある。		
保全の取り組み名称	アサリの再生事業（干潟観察会と潮干狩り体験も含む）		
実施団体名	NPO 法人宮島ネットワーク（「宮島の磯・生き物調査団」の一部協力を得る）		
連絡先住所	〒739-0425 広島県廿日市市物見西一丁目9-2（呼坂 達夫）		
代表者名	理事長梅林保雄	Email	mjt-ybsk@ms11.megeegg.ne.jp
団体会員数	65名	HP	
（活動の概要） - 宮島の干潟で以前のように豊かに採れるアサリに再生し、地産地消を行う。 - アサリを養殖すると同時に産卵所としての役割を果たし、周辺に稚貝が広まるよう努める。 - アマモ場を保全して、稚貝の着生も高める。 - 地域の子どもたちや観光客にも干潟に触れ、生きものに親しんでもらう。 - 広島周辺は干潟が減少している。島に行かないと磯・干潟に恵まれない現状である。干潟に棲む生き物に触れて楽しみ、自然の大切さを感じてもらい環境保全の意識を高める。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 （アサリの自然再生 漁場の耕運や不要な海藻類・死貝の除去などとして、稚貝の着生を誘導し着底に努める。また、外敵のナルトビエイ・クロダイから食害防止のため覆い網を設置・保守。アサリにとって快適な環境づくりに努める。一部では母貝の育成場を確保して自然産卵をさせ湾外にも稚貝を広める。 定期的な「干潟観察会」の実施に「潮干狩り体験」を加えて海の恵みに感動・体感させる）			

（最近の活動実績）

- 平成29年 1月28日 29年12月30日

（活動内容）

清掃整備と成貝の回収 70回

（活動内容）

平成29年3月13日 干潟観察と潮干狩り（宮島の磯・生き物調査団）

平成29年4月29日 干潟観察会と潮干狩り（パパフレンド協会）

平成29年5月10日 アサリ稚貝 約2ミリ育成ネット袋詰め作業（宮島町 長浦）

平成29年5月24日 アサリ稚貝 約2ミリ育成ネット袋詰め作業（宮島町 長浦）

平成29年7月10日 アサリ稚貝 育成ネット袋詰を裏返し（宮島町 長浦）

平成29年7月24日 アサリ稚貝 約10～15ミリ育成ネット回収 長浦（稚貝5袋放流）

平成29年7月25日 アサリ稚貝 約10～15ミリ育成ネット回収 長浦（稚貝1.5袋放

流）

平成29年8月 9日 アサリ稚貝 約10～15ミリ育成ネット回収 長浦（稚貝2袋放流）

平成29年9月 5日 アサリ稚貝 約15～20ミリ育成ネット回収須屋浦（稚貝4袋放

流）



関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

干潟と保全の取り組み (No. 57)

干潟の名称	阿品海岸、地御前海岸（地御前神社外宮橋付近）		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	護岸、砂浜海岸としての特性・利用状況を持つ。地御前海岸は、付近に漁港があり、漁港海岸としての特性を持つ。		
保全の取り組み名称	海のクリーンアップ作戦（海岸清掃）		
実施団体名	廿日市市、市民、漁協・企業等団体		
連絡先住所	〒738-8501 廿日市市下平良一丁目11番1号		
代表者名	廿日市市環境政策課	Email	kankyo@city.hatsukaichi.lg.jp
団体会員数	名	HP	
（活動の概要） 「誰もが参加しやすい活動」を通じて、「美しい瀬戸内を守っていく」ことを、参加者をはじめとする多くの人に訴えていくことを目的として海岸清掃を実施。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） 平成27年7月25日 参加者約320名 650kg			
 阿品海岸 - 平成28年度 雨天中止 - 平成29年7月15日 参加者約120名 410kg			
  地御前海岸			

関連する生物種等	は希少種
市として生物種の調査は行っていない。	
希少種の特徴等	
不明	

干潟と保全の取り組み (No. 58)

干潟の名称	大野鳴川海岸		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【（ ）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	海岸延長約 900m の砂浜海岸 釣りやレジャー等で利用されている。		
保全の取り組み名称	海のクリーンアップ作戦（海岸清掃）		
実施団体名	廿日市市、市民、漁協等団体		
連絡先住所	〒738-8501 廿日市市下平良一丁目 1 1 番 1 号		
代表者名	廿日市市環境政策課	Email	kankyo@city.hatsukaichi.lg.jp
団体会員数	名	HP	
（活動の概要） 「誰もが参加しやすい活動」を通じて、「美しい瀬戸内を守っていく」ことを、参加者をはじめとする多くの人に訴えていくことを目的として海岸清掃を実施。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 28 年 7 月 17 日 参加者約 150 名 3120kg - 平成 29 年 7 月 15 日 参加者約 150 名 1240kg			
 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物： ○海藻（海草）： ○植物：	
市として生物種の調査は行っていない。	
希少種の特徴等	
不明	

干潟と保全の取り組み (No. 59)

干潟の名称	宮島包ヶ浦		
海城（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	砂浜海岸 付近には包ヶ浦自然公園があり、海水浴やレジャー等で利用されている。		
保全の取り組み名称	海のクリーンアップ作戦（海岸清掃）		
実施団体名	廿日市市、瀬戸内海国立公園宮島地区パークボランティアの会、市民		
連絡先住所	〒738-8501 廿日市市下平良一丁目11番1号		
代表者名	廿日市市環境政策課	Email	kankyo@city.hatsukaichi.lg.jp
団体会員数	名	HP	
（活動の概要） 「誰もが参加しやすい活動」を通じて、「美しい瀬戸内を守っていく」ことを、参加者をはじめとする多くの人に訴えていくことを目的として海岸清掃を実施。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成29年7月16日 参加者約40名 1280kg  			

関連する生物種等	☐ は希少種
市として生物種の調査は行っていない。	
希少種の特徴等	
不明	

干潟と保全の取り組み (No. 60)

干潟の名称	廿日市市大野瀬戸地先		
海域（府県）名*1	広島湾	（広島県）	エリア名*1
干潟の面積	27ha 出典： 【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	アサリ漁場として活用されている。		
保全の取り組み名称	水産多面的機能発揮対策事業		
実施団体名	前潟干潟研究会		
連絡先住所	〒739-0443 廿日市市沖塩屋三丁目4番21号		
代表者名	濱本 恵津生	Email	—
団体会員数	18名	HP	—
（活動の概要） 稚貝の沈着促進、機能発揮のための生物移植、機能低下を招く生物の除去、モニタリングの4つを主な活動内容としている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・29年3月12日 （活動内容） アオサ等の一斉除去活動 			
・29年5月10日 （活動内容） 稚貝の沈着促進（袋詰め作業） 			

関連する生物種等	は希少種
○干潟の生き物：アサリ ○海藻（海草）：アオサ	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

干潟と保全の取り組み (No. 61)

干潟の名称	厳島神社周辺海岸		
海域（府県）名*1	広島湾	（広島県）	エリア名*1
干潟の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	世界遺産厳島神社の神社地。厳島神社本社を中心に大鳥居、客神社、回廊等の多く施設が干潟の中に建立している。		
保全の取り組み名称	海岸清掃		
実施団体名	廿日市市宮島公衆衛生推進委員会		
連絡先住所	〒739-0505 廿日市市宮島町 1162-18 廿日市市宮島支所内		
代表者名	新竹俊文	Email	
団体会員数	44名	HP	
（活動の概要） 夏の潮の大きな日に、廿日市市宮島町公衆衛生推進委員を中心に宮島町民及びボランティア団体が、厳島神社周辺海浜と長浜海岸、杉之浦海岸とその周辺の河川で、海岸清掃を実施。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成28年 7月 2日 参加者376人 7,605kg - 平成29年 6月 24日 参加者352人 4,490kg			
			
厳島神社周辺		長浜神社周辺	

関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	
不明	

干潟と保全の取り組み (No. 62)

干潟の名称	前潟干潟		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	27ha		
干潟のタイプ	前浜干潟		
干潟の特徴	区画漁業権が設定され、広島湾におけるアサリ生産の中心的存在である。		
保全の取り組み名称	水産多面的機能発揮対策事業		
実施団体名	前潟干潟研究会		
連絡先住所	〒739-0443 廿日市市沖塩屋3丁目4-21（大野町漁業協同組合内）		
代表者名	濱本 恵津生	Email	
団体会員数	22名	HP	
（活動の概要） 近年、減少したアサリ生産量を稚貝の沈着促進、移植及び有害生物の防除等により回復させる。			
（主な活動内容） アサリ稚貝の分布調査、稚貝沈着促進、稚貝保護・回収・移植、有害生物除去、アサリ漁場管理マニュアル作成、研修会・学習会の開催 県・市・研究機関との協同連携			
（平成28年度の活動実績） 4月（4回程度）アサリ稚貝分布調査 5～6月（7回程度）アサリ稚貝保護（網掛け）、沈着促進 8～9月（6回程度）アサリ稚貝回収・移植 3月（1回）有害生物除去 周年 アサリ資源モニタリング			
   			

関連する生物種等	
有害生物	二枚貝：ホトトギス 巻貝：ツメタガイ
希少種の特徴等	
不明	

干潟と保全の取り組み (No. 63)

干潟の名称	鹿川湾干潟		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
干潟の面積	4 ha 出典：【（ ）】		
干潟のタイプ	永田川・小鹿野川の河口干潟		
干潟の特徴	河口付近は砂質干潟で離れると粘土質干潟		
保全の取り組み名称	永田川河口干潟環境の保全再生プロジェクト		
実施団体名	永田川カエル倶楽部		
連絡先住所	〒737-2302 江田島市能美町鹿川 558-1		
代表者名	池田朝雄	Email	consaru-kks@luck.ocn.ne.jp
団体会員数	29 名	HP	
(活動の概要) ① 3～9月まで清掃活動 ② 3、4月にマテガイ採り ③ 夏休みに干潟の生き物調査（特に、タイラギとツメタガイの調査）			
(主な活動内容) 干潟清掃、干潟の生き物調査 その他（マテガイ採り）			
  			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物：マテガイ、タイラギ、ツメタガイ、オオノガイ、シャコ ○海藻（海草）：ミル、コアマモ ○植物： 6月にあったタイラギは、底引きに根こそぎ採られ、8月にはなくなっていた。	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

干潟と保全の取り組み (No. 64)

干潟の名称	重信川河口域		
海域（府県）名*1	伊予灘（愛媛県）	エリア名*1	上灘
干潟の面積	13.3ha 出典：【環境省 HP（生物多様性の観点から重要度の高い海域）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	ハクセンシオマネキ等多くの水生生物が生息するほか、春、秋はシギ・チドリ類等の渡来地となっている。開発等による環境悪化が危惧されたが、自治体や各組織の連携により改善され、今も保全活動が続けられている。		
保全の取り組み名称	今出ヶ浜・重信川河口の大掃除による環境保全		
実施団体名	今出ヶ浜潮騒を守る会		
連絡先住所	〒791-8044 松山市西垣生町 869-1		
代表者名	仙波 隆	Email	ri-senba@cnc.e-catv.ne.jp
団体会員数	22 名	HP	
（活動の概要） 平成 13 年に団体が設立されて以降、松山市垣生地区の今出ヶ浜及び重信川河口一帯の環境を保全していくため、団体による定期的な清掃活動に加え、同地区に在住の方や小中学校の児童生徒等の参加による二回の大規模な清掃活動等を行っており、海岸・砂浜の美化に貢献している。平成 25 年には、公益社団法人日本河川協会から河川功労者表彰を受けたほか、環境大臣より瀬戸内海環境保全功労者として表彰された。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ 試験的に海岸沿いに春は菜の花、秋はコスモスを育てている。 ） （最近の活動実績） ・29 年 5 月 14 日 会のメンバーによる重信川河口及び浜のゴミを 2 種分別にて収集する。(約 50 袋) ・29 年 6 月 25 日 会のメンバーにより大清掃前の今出ヶ浜周辺の草刈りを実施し乾燥させる。 ・29 年 7 月 1 日 垣生地域の方々 550 名参加による 2 種分別（燃えるごみと燃えないごみ）収集の大清掃を実施する。(約 6 トン) ・29 年 7 月 30 日 会のメンバーによる重信川河口及び浜のゴミを 2 種分別にて収集する。(約 50 袋) ・29 年 9 月 10 日 会のメンバーによる重信川河口及び浜のゴミを 2 種分別にて収集する。(約 50 袋) ・29 年 11 月 19 日 会のメンバーにより大清掃前の今出ヶ浜周辺の草刈りを実施し乾燥させる。 ・29 年 11 月 25 日 約 520 名の参加者による大清掃。参加者が回収したごみを 2 種分別（燃えるごみと燃えないごみ）する。(約 5 トン)			



関連する生物種等		は希少種
○野鳥：チュウシヤクシギ、メダイチドリ、キアシシギ、キョウジョシギ、ハマシギ、アカアシシギ、ホウロクシギ ○干潟の生き物：ハクセンシオマネキ ○海藻（海草）： ○植物：ハマサジ、シオクグ		
希少種の特徴等		
（希少種が存在しない場合は「希少種は存在しない」と記述。） ハクセンシオマネキ （環境省絶滅危惧Ⅱ類（VU）、松山市レッドデータブック 2012 準絶滅危惧種） 甲幅約 1.5cm の小型のカニ。河口の砂泥地に縦穴を掘って生活する。雄は、片足の鉗脚が巨大で白色を帯びている。		
		
		ハクセンシオマネキ
ハマサジ （環境省準絶滅危惧（NT）、松山市レッドデータブック 2012 準絶滅危惧種） 海岸の砂地に生える越年草。葉は根ぎわに群生し、長楕円形のさじ型で下部は次第に挟まって柄状になり、ふちに鋸歯はない。長さ 8~17cm。9~10 月頃群生する葉の中央から花茎が伸びて多数枝分かれし、小枝の先に穂状に密に花をつける。高さ 30~50cm。		
		
		ハマサジ
シオクグ （松山市レッドデータブック 2012 絶滅危惧種） 海水の出入りする湿地に生え、長い地下茎のある多年草。葉は少数で幅は 1.5~2mm と細いが著しく長い。茎の基部では鞘だけで葉身がない。茎もやや細く、3 稜形で上方がざらつく。高さ 30~60cm。		
		
		シオクグ

干潟と保全の取り組み (No. 65)

干潟の名称	乙津川（大野川の分流）河口干潟		
海域（府県）名*1	伊予灘（大分県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	干潟に続いて砂州、塩生湿地、陸化など地形に変化があるので自然の多様性に恵まれている。		
保全の取り組み名称	干潟の保全		
実施団体名	河川ボランティア		
連絡先住所	〒870-0108 大分市三佐 1228		
代表者名	工藤 敦子	Email	kukudou@oct-net.ne.jp
団体会員数	2 名	HP	
（活動の概要） 植物・貝・カニなど希少生物に恵まれているので、清掃活動と共に保護、再生、研究を続けている。小学生の観察会にも応援指導をしている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 大野川清掃活動（月 1 回） ・ 国土交通省職員による大野川清掃活動への参加（年 1～2 回） ・ 地元小学生が参加する環境学習の講師（年 3 回）  大野川清掃活動（月 1 回）  環境学習会			

関連する生物種等		は希少種
○野鳥： オオバン等（留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥、迷鳥など 99 種） ○干潟の生き物：フトヘナタリ、ハクセンシオマネキ、ソトオリガイ、センベシアワモチ、アシハラガニ等 ○植物： ハママツナ、イソホウキギ、ハマサジ、ハマボウ、ハマボウフウ、フクド等		
希少種の特徴等		
ハクセンシオマネキ（環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)、大分県準絶滅危惧(NT)） 分 類：節足動物門 軟甲綱 エビ目 スナガニ科		
センベシアワモチ（環境省絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、大分県絶滅危惧ⅠB類(EN)） 分 類：軟体動物門 腹足綱 収柄眼目 イソアワモチ科		
ハママツナ（環境省掲載なし、大分県準絶滅危惧(NT)）		
分 類：離弁花類 アカザ科		
イソホウキギ（環境省掲載なし、大分県準絶滅危惧(NT)）		
分 類：離弁花類 アカザ科		
ハマサジ（環境省準絶滅危惧(NT)、大分県絶滅危惧Ⅱ類(VU)）		
分 類：合弁花類 イソマツ科		
ハマボウ（環境省掲載なし、大分県絶滅危惧Ⅱ類(VU)）		
分 類：離弁花類 アオイ科		
フクド（環境省準絶滅危惧(NT)、大分県準絶滅危惧(NT)）		
分 類：合弁花類 キク科		

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 66)

干潟の名称	王司（千鳥ヶ浜）干潟		
海域（府県）名*1	周防灘（山口県）	エリア名*1	
干潟の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	下関市の瀬戸内海側に位置し、アサリ、ハマグリ等の二枚貝の生息場となっている。また、冬季はノリ養殖も営まれている。底質はほぼ砂泥質で、底生生物はカニ類、ヤドカリ等が生息している。		
保全の取り組み名称	干潟の耕耘、ツメタガイ等の除去		
実施団体名	王司干潟改良グループ		
連絡先住所	〒752-0915 山口県下関市王司本町6丁目2番28号		
代表者名	矢儀 伸治	Email	
団体会員数	25名	HP	
（活動の概要） アサリ等の二枚貝の生息環境や干潟の機能を維持するため、干潟耕耘やツメタガイ等の除去活動を行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（干潟耕耘、ツメタガイ等の除去、竹立てによるアサリ稚貝の着底促進）			
（最近の活動実績） 平成29年4月24日：清掃活動 参加者478名（地域の小学生との共同活動） 平成29年6月9日：ツメタガイ類及びその卵塊の除去活動 参加者83名 （地域の小学生との共同活動） 平成29年7月24日～8月22日：竹立て活動 平成29年8月21日～8月22日：干潟の耕耘活動 平成29年8月23日：モニタリング 平成29年12月4日：アサリ母貝団地設置  王司地区（干潟等の保全） 面積：350m×350m＝12.25ha  ツメタガイ類及びその卵塊 の除去活動  干潟の耕耘活動			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○干潟の生き物：アサリ、ハマグリ等の二枚貝類、ガザミ、カニ類、シャコ、ゴカイ類等 ○海藻（海草）：アマモ類 ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 67)

干潟の名称	榎野川河口干潟 (山口湾)		
海域 (府県) 名*1	周防灘 (山口県)	エリア名*1	
干潟の面積	344ha 出典:【 (榎野川河口域・干潟自然再生全体構想: 2004.3)】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他 ()		
干潟の特徴	シギ・チドリ類やカモ類など多くの渡り鳥や野鳥の休息地となっており、日本の重要湿地 500 に選ばれている。また、絶滅危惧種カブトガニの生息地でもある。		
保全の取り組み名称	榎野川河口域干潟等における里海再生活動		
実施団体名	榎野川河口域・干潟自然再生協議会		
連絡先住所	〒753-8501 山口県山口市滝町 1-1 山口県環境生活部自然保護課 (協議会事務局)		
代表者名	浮田 正夫	Email	a15600@pref.yamaguchi.lg.jp
団体会員数	56 名	HP	
(活動の概要) 流域の多様な主体の参画と産官学民の協働・連携により、協議会構成員が干潟耕耘、カブトガニ生息状況調査、野鳥調査、調査研究、環境学習活動等を実施。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他 (干潟再生活動等)			
(最近の活動実績) ➤ 干潟再生活動 (2017 年 4 月 29 日) 参加者: 430 人 内 容: 干潟耕耘、アサリ再生活動、生物観察会、潮干狩り体験等 ➤ あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟 (2017 年 7 月 22 日) 参加者: 50 人 内 容: 竹を活用したアサリ育成手法による環境学習会 ➤ カブトガニ幼生生息調査 (2017 年 8 月 20 日、9 月 8 日) 参加者: 計 50 人 内 容: ベルトトランセクト法による生息状況調査 ➤ カブトガニ観察会 (2017 年 8 月 20 日) 参加者: 54 人 内 容: 親子対象の観察会 ➤ 野鳥の教室 (2017 年 12 月 3 日) 参加者: 19 人 内 容: 山口県立きらら浜自然観察公園における野鳥観察等 ➤ 二枚貝・野鳥調査、調査研究等 (通年) ➤ ナルトビエイ駆除 (7 月～10 月) ➤ 協議会会議 (2017 年 1 月 29 日、4 月 29 日)			



榎野川河口干潟 (南潟)



干潟の耕耘作業



地元産アサリ

関連する生物種等		は希少種
○野鳥: シギ・チドリ類 (オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、カラフトアオアシシギ、ハマシギ、ダイゼン、シロチドリ等)、セイタカシギ、カモ類 (カルガモ、オナガガモ、マガモ、ヒドリガモ、トモエガモ等)、カイツブリ、カワウ、サギ類 (アオサギ、ダイサギ、コサギ等)、クロツラヘラサギ、オオバン、カモメ類 (ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、ゼグロカモメ等)、ミサゴ、トビ等 ○干潟の生き物: カブトガニ、貝類 (アサリ、ヒメシラトリ、マテガイ、ソトオリガイ、ウミニナ、ヘナタリ、オオノガイ、ホトトギス等)、甲殻類 (ハサミシャコエビ、ニホンスナモグリ、アナジャコ、マメコブシガニ、オサガニ、ハクセンシオマネギ、テッポウエビ等)、多毛類、星口類、腕足類 (ミドリシヤミセンガイ等)、魚類 (トビハゼ等) 等 ○海藻 (海草): アオサ、オゴノリ、カイガラアマノリ等 ○植物: ヨシ、ハマゴウ、ホソバハマアカザ等		
希少種の特徴等		
➤ カブトガニ (環境省絶滅危惧 I 類 (CR+EN)) 分 類: カブトエビ目 カブトエビ科 特徴等: 約 2 億年前からほとんど形を変えておらず、「生きている化石」と呼ばれている。日本では瀬戸内海と九州北部に生息しているが、近年、沿岸の埋立てによる産卵場・生育場の消失等により個体数が急激に減少している。かつては山口県内においても広い範囲で生息していたが、現在では山口湾、平生湾及び千鳥湾の 3 沿岸域でしか生息が確認されていない。協議会では、山口湾のカブトガニ産卵場・生育場の保全を目的とし、2006 年からワーキンググループにより、幼生の生息状況調査や観察会等を通じた普及啓発活動を実施している。		
➤ クロツラヘラサギ (環境省絶滅危惧 I B 類 (EN)) 分 類: コウノトリ目 トキ科 特徴等: 体長約 70cm の白い体、しゃもじのような特徴的な嘴を持つ。主に朝鮮半島で繁殖し、越冬のため山口や九州・沖縄の河口域、干潟を訪れる。2017 年の世界一斉センサスによると、世界で 3,941 羽、日本は台湾に次いで 2 番目に多い 433 羽が確認されている。山口湾においては、NPO 法人野鳥やまぐちによる飛来数調査が行われており、例年 20～30 羽が確認されている。また、湾に隣接する山口県立きらら浜自然観察公園に訪れることもあり、ユニークな餌採り行動等を間近で観察できる。		



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28 年～30 年) 参照

干潟と保全の取り組み (No. 68)

干潟の名称	豊前市八屋干潟		
海域（府県）名*1	周防灘（福岡県）	エリア名*1	瀬戸内海西部
干潟の面積	175ha 出典：【第4回自然環境保全基礎調査海域生物環境調査報告書（干潟、藻場、サンゴ礁調査）第1巻 干潟】 ※面積は松江干潟を含む		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	砂質の遠浅な海底地形である。		
保全の取り組み名称	豊前市八屋地先の干潟の地域資源の維持・回復		
実施団体名	福岡県豊前海環境・生態系保全対策地域協議会		
連絡先住所	豊前市大字吉木955		
代表者名	—	Email	—
団体会員数	38名	HP	—
（活動の概要） ナルトビエイの食害を防ぐことなどを目的としたアサリの保護区の設定や、アサリの移植、近隣の市民に対する普及啓発活動などを実施。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（保護区の設定）			
（最近の活動実績） - 平成29年6月23日 理解・増進を図る取り組み 八屋小学校の児童に対して、干潟と保全活動の内容を紹介し、その後、共同でアサリの生育調査を実施。 - 平成29年10月16～19日 底質改善を目的とした覆砂の実施			
			
理解・増進を図る取り組み			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ウミアイサ、ミサゴ、トビ、バン、オオバン、シロチドリ、キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、キジバト、カワラバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等 ○干潟の生き物：アサリ、アナジャコ、アオギス、シロチチブ、シラヌイハゼ	
希少種の特徴等	
アオギス（環境省絶滅危惧ⅠA類、福岡県絶滅危惧ⅠB類） 分 類：スズキ目キス科 特徴等：体長35cm。シロギスに似ているが、第2背鰭に小黑点列があることや、腹鰭と臀鰭の起部が黄色いことで区別できる。規模が大きく、勾配が緩やかで、近隣に河川が流入する砂質の前浜干潟に生息する。産卵期は5～7月。5月頃、産卵のため豊前海の沿岸の浅所や河口域に出現する。満潮時の汀線付近に出現することもある。当歳魚は、9～10月にかけて前浜干潟や河口域で採集される。	
シロチチブ（環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧） 分 類：スズキ目ハゼ科 特徴等：周防灘、有明海、一部の玄界灘・響灘の前浜干潟に分布。体長8cm。大規模な湾の浅海域に生息する。生息地の底質は、アサリやカキ等の貝殻が多数表在している砂や砂泥であることが多い。産卵期は5～9月で、有明海の干潟で複数例確認されている。	
シラヌイハゼ（環境省準絶滅危惧、福岡県準絶滅危惧） 分 類：スズキ目ハゼ科 特徴等：周防灘、響灘、玄海灘、有明海の前浜干潟、浅海域に分布。有明海ではシルトを含む砂泥底でも確認されることがあるが、それ以外の海域では砂底でも確認されている。有明海や周防灘の前浜干潟浅所では、産卵期である春から夏にかけてみられることが多い。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 69)

干潟の名称	北九州市 曽根干潟		
海域（府県）名 ^{*1}	周防灘（福岡県）	エリア名 ^{*1}	
干潟の面積	5 1 7 ha 出典：【（北九州市環境局環境監視課のホームページより）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	干潟には多種多様な生物が生息し、冬には大陸から渡り鳥が飛来してくる。 古くから漁業が営まれており、人々の生活の場にもなっている。沖合には、平成 18 年 3 月開港した北九州空港がある。		
保全の取り組み名称	曽根干潟クリーン作戦		
実施団体名	北九州市立曽根東小学校		
連絡先住所	〒800-0213 北九州市小倉南区中曽根東三丁目 5－1		
代表者名	学校長 古澤 律子	Email sonehigashi-e@kita9.ed.jp	
団体会員数	4 7 7 名 (H29.5.1 現在の児童数)	HP http://www.kita9.ed.jp/sonehigashi-e/	

(活動の概要)

曽根干潟の生態系を崩さないように干潟のごみを学校、保護者、地域と協力して拾う。このような活動を通じて、ふるさとに対する愛着をもち、環境を守ろうとする心情を培う（郷土愛・環境保全・生命尊重・資源の有効活用）。

(主な活動内容)

種の供給・再生

調査研究

干潟清掃

研修会・学習会

他との協同連携

その他（ ）

(最近の活動実績)

・ 2 9 年 6 月 6 日 曽根干潟クリーン作戦

・ 2 9 年 9 月 1 9 日 曽根干潟クリーン作戦



関連する生物種等		 は希少種
○野鳥：ズグロカモメ、セグロカモメ、コアジサシ、ホウロクシギ、ダイシャクシギ、カラフトアオアシシギ、ツクシガモ、チュウヒ、マガモ、キアシシギ、オナガガモ、ミサゴ、チュウサギ、アオサギ ○干潟の生き物：アオギス、カブトガニ、シマヘナタリ、トビハゼ、ハクセンシオマネキ、イトゴカイ類、ガンズキ ○植物：ホソバノハマアカザ、ハママツナ、ハマボウ、ハマサジ、シバナ、アイアシ、ヨシ、ナガミノオニシバ、シオクグ、ハマナタマメ、ハマエンドウ、ハマウド、ハマゼリ、ハマヒルガオ、ハマゴウ		
希少種の特徴等		
・ズグロカモメ（環境省 絶滅危惧Ⅱ類） ユリカモメより少し小さい。くちばしは黒く短く脚は暗赤色。背と翼は薄い青灰色。夏季に中国沿岸で繁殖し、冬季には日本や台湾やベトナムの海岸や干潟に渡って越冬する。 ・ツクシガモ（環境省 絶滅危惧Ⅱ類） 鮮やかな色彩の大型カモ類。オス、メスともに黒緑色の頭と赤いくちばしを持ち、体は白く、胸から腹にかけて黒い線がある。ユーラシア大陸の温帯で繁殖。曽根干潟では 300 羽以上が越冬し、12～3 月ごろ見られる。 ・カブトガニ（環境省 絶滅危惧Ⅰ類） 瀬戸内海沿岸から九州に分布。6～8 月の大潮期、朽網川や貫川の河口付近の砂浜に、沖合からつがいややってきて産卵。卵からかえった幼生は脱皮をくりかえしながら、全長 11cm の 8 令幼生に成長するまで、干潟で生息している。		

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 70)

干潟の名称	北九州市小倉南区曽根干潟		
海域（府県）名*1	周防灘（福岡県）	エリア名*1	
干潟の面積	5 1 7 ha 出典：【第2回自然環境保全基礎調査干潟、藻場、サンゴ礁分布調査報告書 昭和50年福岡県】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河川干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	環境省「重要湿地」やIBA重要野鳥生息地に選定され、絶滅危惧種のカブトガニやズグロカモメなどが見られる国際的にも貴重な湿地。泥質、砂泥質、砂質、礫と多様な底質があり塩生湿地もある。漁業では豊前海一粒牡蠣が有名。周辺には農地や産業用地が広がり、沖には北九州空港がある。		
保全の取り組み名称	曽根干潟の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	日本野鳥の会北九州支部		
連絡先住所	〒804-0054 福岡県北九州市戸畑区牧山新町2-16第1コーポ松本22号室		
代表者名	前田 伸一	Email	s.zosterops.63@clock.ocn.ne.jp
団体会員数	304名（18.1月）	HP	http://kitakyushuyachou.web.fc2.com/
（活動の概要） 1998年から毎月の定例探鳥会を開催し、干潟に生息する鳥類の動向把握に努めている。さらに、地元小学校との協働による観察会や清掃活動を実施し、保全のための普及啓発を行っている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（干潟保全（鳥類等）に影響が懸念される開発行為に対する意見提出）			
（最近の活動実績） 平成29年4月～平成30年1月：毎月の定例探鳥会開催（参加者約200名）。 平成29年4月：曽根海岸清掃探鳥会を開催 平成29年6月・9月：地元小学校の干潟クリーン作戦に協力参加。 平成30年1月：曽根干潟の鳥類生息調査及びガン・カモ類越冬調査の実施。 平成30年1月：地元小学校の曽根干潟野鳥観察会を指導。			
			
地元小学校野鳥観察会		探鳥会	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等		は希少種
○野鳥：ツクシガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、クロサギ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、オオソリハシシギ、ハマシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ズグロカモメ、コアジサシ、コチョウゲンボウ、ミサゴ、ハヤブサ、コシアカツバメ、オオヨシキリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、コシャクシギ、カラフトアオアシシギ、オバシギ、コオバシギ、ヘラシギ、チュウシャクシギ、マガモ、ユリカモメ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシボソガラス、ダイサギ ○干潟の生き物：カブトガニ、アオギス、ハクセンシオマネキ、オサガニ、シマヘナタリ ウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、ゴマフダマガイ、テリザクラ、イチョウシラトリ、アラムシロガイ、ホトトギスガイ、シオフキガイ、マテガイ、アサリ、ソトオリガイ、シロスジフジツボ、マメコブシガニ、イソガニ、ヤマトオサガニ、ユムシ ○海藻（海草）：コアマモ ○植物：ハマボウ、シバナ、ハマサジ、シオクグ		
希少種の特徴等		
ズグロカモメ（環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類・福岡県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類） 分類：チドリ目カモメ科 特徴等：小型のカモメ類で全長33cm。カニ、ゴカイ、貝類などを捕食する。中国東北部、韓国で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部で越冬する。 曽根干潟には約400羽が飛来し、国内の有数の越冬地である。		 ©日本野鳥の会北九州支部
クロツラヘラサギ（環境省 RDB 絶滅危惧ⅠB類・福岡県 RDB 絶滅危惧ⅠB類） 分類：ペリカン目トキ科 特徴等：主に朝鮮半島の西海岸で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部、台湾、ベトナムで越冬する。日本では九州、沖縄で数カ所の越冬地があるほか、各地で記録される。干潟、河川、池、水路で魚類や甲殻類などを、へら状のくちばしを左右に振りながら採食する。曽根干潟には冬鳥として約30羽が飛来する。		 ©日本野鳥の会北九州支部
カブトガニ（環境省絶滅危惧Ⅰ類、福岡県絶滅危惧ⅠA類） 分類：剣尾目カブトガニ科 特徴等：以前は、瀬戸内海及び九州北部の各地海岸で普通に見られたが、近年は激減している。6～8月の大潮満潮時に砂浜の最満潮線付近で産卵。孵化した幼生は隣接した泥質干潟、垂成体は干潟外の藻場等、成体は沖合の浅海域で過ごすなど成長段階で異なる多様な環境がセットで必要なため、沿岸環境の健全性を示す指標種と言われる。 曽根干潟では産卵に来浜するつがい数が2004～2005年と2013～2016年は1000つがいを大きく越え、国内最大級の産卵生息地であることが確認されたが、5年間の急増の後、激減するという大きな変動、干潟の幼生の数の変動や生息域の減少など、今後が危惧される要素もみられる。		 ©日本カブトガニを守る会 福岡支部

干潟と保全の取り組み (No. 71)

干潟の名称	曾根干潟		
海域（府県）名*1	周防灘（福岡県）	エリア名*1	
干潟の面積	5 1 7 ha 出典：【第2回自然環境保全基礎調査干潟、藻場、サンゴ礁分布調査報告書 昭和50年福岡県】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	環境省「重要湿地」やI B A重要野鳥生息地に選定され、絶滅危惧種のカブトガニやズグロカモメなどが見られる国際的にも貴重な湿地。泥質、砂泥質、砂質、礫と多様な底質があり塩生湿地もある。漁業では豊前海一粒牡蠣が有名。周辺には農地や産業用地が広がり、沖には北九州空港がある。		
保全の取り組み名称	曾根干潟のカブトガニと生息地の自然環境を守るための普及啓発事業		
実施団体名	日本カブトガニを守る会福岡支部		
連絡先住所	〒800-0232 福岡県北九州市小倉南区朽網東5-1 2-2 6		
代表者名	高橋 俊吾	Email	shun5-taka8c@jcom.home.ne.jp
団体会員数	4 1 名	HP	https://blueshipjapan.com/crew/sonehigata
（活動の概要） 国内最大級の生息地である曾根干潟のカブトガニの保護と生息地の自然環境を守るために、幼生調査や産卵調査を継続的に行うほか、産卵観察会等の実施や展示施設での解説等の環境普及啓発活動、産卵場整備や地元団体との共働による干潟の清掃等の保全活動を実施			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 29 年 5 月 20 日 春の干潟の野鳥と水辺の希少生物観察会・清掃活動（共催 51 名参加） - 平成 29 年 6 月 9 日～15 日, 24 日～30 日 カブトガニ産卵調査 - 平成 29 年 6 月 11 日 朽網海岸漂着ゴミの清掃・産卵場整備（地元団体共催 82 名参加） - 平成 29 年 7 月 8 日～15 日, 22 日～29 日 カブトガニ産卵調査 - 平成 29 年 7 月 23 日 カブトガニ産卵観察会（14 名参加） - 平成 29 年 7 月 25～26 日 広島大学「曾根干潟におけるカブトガニの生息状況」調査協力 - 平成 29 年 7 月 27 日 カブトガニの産卵観察会と干潟清掃（地元団体共催 69 名参加） - 平成 29 年 8 月 7 日～12 日, 22 日～25 日 カブトガニ産卵調査 - 平成 29 年 9 月 5 日～10 日, 19 日～23 日 カブトガニ 1 齢幼生打ち上げ個体の保護 - 平成 29 年 9 月 24 日 カブトガニシンポジウム後援、支部会員 2 名講師 - 平成 29 年 11 月 11 日 秋の干潟の野鳥と河口の希少生物観察会・河口清掃（共催 66 名参加） ※幼生調査は 3 月～12 月 月 2 回程度、春秋の定期調査 ※朽網産卵場の環境整備は年間を通して 2～3 名の会員で随時 ※カブトガニ自慢館での解説（4 月～12 月）随時			
  			
海岸清掃活動 産卵観察会 カブトガニ自慢館			

関連する生物種等		は希少種
○野鳥：ツクシガモ、ホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、クロサギ、クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、オオソリハシシギ、ハマシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ズグロカモメ、コアジサシ、コチョウゲンボウ、ミサゴ、ハヤブサ、コシアカツバメ、オオヨシキリ、メダイチドリ、オオメダイチドリ、コシャクシギ、カラフトアオアシシギ、オバシギ、コオバシギ、ヘラシギ、チュウシャクシギ、マガモ、ユリカモメ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシボソガラス、ダイサギ ○干潟の生き物：カブトガニ、アオギス、ハクセンシオマネキ、オサガニ、シマヘナタリ、ウミニナ、イボウミニナ、ヘナタリ、ゴマフダマガイ、テリザクラ、イチョウシラトリ、アラムシロガイ、ホトトギスガイ、シオフキガイ、マテガイ、アサリ、ソトオリガイ、シロスジフジツボ、マメコブシガニ、イソガニ、ヤマトオサガニ、ユムシ ○海藻（海藻）：コアマモ ○植物：ハマボウ、シバナ、ハマサジ、シオクグ		
希少種の特徴等		
ズグロカモメ（環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類・福岡県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類） 分類：チドリ目カモメ科 特徴等：小型のカモメ類で全長 33cm。カニ、ゴカイ、貝類などを捕食する。中国東北部、韓国で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部で越冬する。曾根干潟には約 400 羽が飛来し、国内の有数の越冬地である。		 ◎日本野鳥の会北九州支部
クロツラヘラサギ（環境省 RDB 絶滅危惧ⅠB類・福岡県 RDB 絶滅危惧ⅠB類） 分類：ペリカン目トキ科 特徴等：主に朝鮮半島の西海岸で繁殖し、韓国南部、日本、中国南部、台湾、ベトナムで越冬する。日本では九州、沖縄で数カ所の越冬地があるほか、各地で記録される。干潟、河川、池、水路で魚類や甲殻類などを、へら状のくちばしを左右に振りながら採食する。曾根干潟には冬鳥として約 30 羽が飛来する。		 ◎日本野鳥の会北九州支部
カブトガニ（環境省絶滅危惧Ⅰ類、福岡県絶滅危惧ⅠA類） 分類：剣尾目カブトガニ科 特徴等：以前は、瀬戸内海及び九州北部の各地海岸で普通に見られたが、近年は激減している。6～8月の大潮満潮時に砂浜の最満潮線付近で産卵。孵化した幼生は隣接した泥質干潟、垂成体は干潟外の藻場等、成体は沖合の浅海域で過ごすなど成長段階で異なる多様な環境がセットで必要なため、沿岸環境の健全性を示す指標種と言われる。曾根干潟では産卵に来浜するつがい数が 2004～2005 年と 2013～2016 年は 1000 つがいを大きく越え、国内最大級の産卵生息地であることが確認されたが、5 年間の急増の後、激減するという大きな変動、干潟の幼生の数の変動や生息域の減少など、今後が危惧される要素もみられる。		 ◎日本カブトガニを守る会福岡支部

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

干潟と保全の取り組み (No. 72)

干潟の名称	中津干潟・豊前海		
海域（府県）名 ^{*1}	周防灘（大分県・福岡県）	エリア名 ^{*1}	
干潟の面積	1,347ha(中津干潟のみ) 出典：【海域生物環境調査報告書（環境省1994.）】		
干潟のタイプ	前浜干潟 河口干潟 潟湖干潟 沖州 人工干潟 その他（ ）		
干潟の特徴	周防灘西位置し、瀬戸内海最大規模の面積を有す。中心が中津干潟。砂質干潟、砂泥質干潟、泥質干潟、礫干潟の他、河口部には塩性湿地、砂浜、砂嘴などの環境がある。生息生物種のうち希少種が30%近い（水辺に遊ぶ会2013.）		
保全の取り組み名称	生きもの元気、子ども元気、漁師さんも元気な中津干潟・豊前海干潟を未来へ		
実施団体名	NPO法人水辺に遊ぶ会		
連絡先住所	〒871-0024 大分県中津市中央町2-8-35		
代表者名	足利由紀子	Email	ashikaga@mizubenasobukai.org
団体会員数	約150名	HP	http://mizubenasobukai.org/
（活動の概要）中津干潟・豊前海干潟の自然環境の保全と持続可能な活用を目的に1999年より活動。主な内容は①自然観察会や環境学習などの啓発活動、②生物調査（底生生物・鳥類・魚類・カブトガニ・アオギスほか）、環境調査、漂着ゴミ調査、郷土史聞き取りなど調査研究活動、③ビーチクリーン、松林景観再生活動、④漁業体験他ブルーツーリズム、⑤合意形成の推進ほか （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 干潟清掃 研修会・学習会 他との協同連携 その他（漁業体験、海岸松林景観再生、環境教育） （最近の活動実績） 啓発活動（参加者1068名） H29年5月4日ビーチクリーンと松林再生 H29年5月27日ひがたまつり（観察会とワークショップ） H29年6月27日おさかなホネホネ教室（骨の勉強） H29年7月22日夏休み干潟観察会 H29年7月30日底曳き網の生きもの観察 H29年8月20日アカテガニ産卵観察会 H29年7月20日～8月25日夏休み海のワークショップ H29年10月1日ビーチクリーンと松林再生 H29年10月29日海苔巻き教室 H29年11月3日浜遠足（再生松林で環境イベント） 調査研究活動 H29年5月～9月カブトガニ生態調査・シギチドリ類調査・ベントス調査 研修会・学習会 H30年3月4日中津干潟アカデミア第1回研究発表会開催（中津市共催） 環境学習 中津市内小中学校：7校 延べ11回 宇佐市内小中学校：3校 延べ5回 福岡県豊前市内小学校：3校 延べ6回			



関連する生物種等		は希少種
○野鳥：ツクシガモ・ヨシガモ・チュウサギ・ヘラサギ・クロツラヘラサギ・シロチドリ・オオソリハシシギ・チュウシャクシギ・ダイシャクシギ・ハマシギ・ズグロカモメ・コアジサシ・ミサゴ・ハイタカ・オオタカ・ハヤブサ ○干潟の生き物：カブトガニ・リシケタイラギ・ズベタイラギ・サビシラトリ・イチョウシラトリ・ムラサキガイ・ハマグリ・シマヘナタリ・カワアイ・イボウミニナ・オオシンデンカワザンショウ・バイ・ヒガシナメクジウオ・アオギス・タビラクチ・チクゼンハゼ・キセルハゼ ○海藻（海草）：コアマモ・アマモ（少）・ヤマトウミヒルモ ○植物：シバナ・コウボウムギ・ハマボウ・ハマサジ・ハマツツナ・フクド・ウラギク		
希少種の特徴等		
○渡り鳥 シギ・チドリ類：春と秋の飛来数が全国トップクラス ダイゼン・チュウシャクシギ・キアシシギ・キョウジョシギ・ハマシギは保全対象の国際基準（推定個体数の0.25%、東アジアオーストラリア地域フライウェイパートナーシップ）を満たす。 ヨシガモ：2015年11月に10,000羽を記録、ラムサール登録基準を満たす ズグロカモメ：例年80羽前後が飛来、ラムサール登録基準を満たす ○アオギス：各海域で近年絶滅、現在は豊前海のみ健全な個体群が維持されていると言われている。 ○カブトガニ：瀬戸内海では曽根干潟（北九州市）と並び、最大の棲息地 ○貝類：中津干潟は群を抜いて貝類が多い ○塩性湿地の植物群：ハマサジ・ハマボウ・シバナなど、塩性植物のまとまった生息が見られる		
  		
写真上 チュウシャクシギ 写真中 アオギス 写真下 カブトガニ		

中津干潟で確認された生物種数（2016年12月現在）				
	総種数	希少種数	生息種数	希少種数
動物	海綿動物門	4	0	4
	刺胞動物門	13	2	13
	節足動物門	142	32	142
	外肛動物門	1	0	1
	扁形動物門	8	1	8
	紐型動物門	1	0	1
	腕足動物門	2	0	2
	星口動物門	3	2	3
	環形動物門	35	5	35
	ユムシ動物門	1	1	1
植物	軟体動物門	286	112	178
	半索動物門	1	1	1
	棘皮動物門	12	0	12
	脊索動物門	241	61	239
	紅色植物門	14	3	14
	緑色植物門	7	0	7
	不等毛植物門	4	0	4
被子植物門		39	11	39
合 計		814	231 (28.4%)	703 (26.7%)

※総種数には現在生息していない種や遺骸のみを確認した種も含まれる。

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

瀬戸内における水環境を基調とする海文化
瀬戸内の藻場・干潟と保全の取り組み 資料編

平成30年11月発行

発行・編集 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号
人と防災未来センター東館5階
電話 078-241-7720 FAX078-241-7730
<http://www.seto.or.jp/setokyo/>